

生物多様性のだ戦略
自然環境調査実施報告書
2020-2021

目次

I. 調査の実施概要	
1. 調査の目的	1
2. 調査実施の経緯	1
3. 実施期間	1
4. 調査対象と体制等	2
5. 調査地点	5
II. 調査結果	
1. 自然環境調査	7
1-1 分類群ごとの調査結果	7
1-2 調査地点ごとの調査結果	15
2. 歴史環境調査	31
III. 自然環境調査からみる課題について	42
確認種リストⅠ：野田市自然環境調査による確認種	45
確認種リストⅡ：河川水辺の国勢調査による確認種	66
参考：希少種・外来種の 카테고리について	70

2022年3月

生物多様性のだ戦略・自然環境調査委員会

野 田 市

I. 調査の実施概要

1. 調査の目的

野田市では、2019（令和元）年から「生物多様性のだ戦略」の見直しを行っている。見直しにおいて、野田市における保全すべき主な自然拠点における動植物調査を実施することにより、野田市の生物多様性の現状における特性を把握し、過去の調査結果等と比較することで変化の把握や取組みの進捗評価、目指すべき目標や指標種、自然拠点の保全を図るための課題、必要な取組み（施策）などを明らかにするための基礎情報を得ることを目的として実施した。

2. 調査実施の経緯

本調査では、野田市域において自然環境の調査実績のある団体・専門家に調査協力を依頼、協力者代表による「調査委員会」を設置した。調査委員会においては、調査目的の確認、調査地点の検討、調査対象、調査員間の役割分担、とりまとめ方針などについて検討・確認を行い、調査全体での整合をはかった。

表1 調査の経緯

2020年 (令和2年)	7月	調査に関する関係者ヒアリング (協力依頼・調査実施方針の確認等)
	8月25日	調査委員会の開催(調査方針等の確認・共有)
	9月15日	第3回市民会議の開催(調査計画の確認)
	9月16日～11月30日	秋季調査の実施(全分類群)
	12月	冬季調査の実施(鳥類、両生類※早春季)
2021年 (令和3年)	1～2月	
	4月9日	第4回市民会議の開催(秋季調査結果速報)
	3～5月	春季調査の実施(全分類群)
	6月28日	第5回市民会議の開催(自然環境調査中間報告)
	6～8月	夏季調査の実施(全分類群)
	9～10月	秋季補足調査の実施(前年度補足分)
2022年 (令和4年)	11月25日	調査委員会の開催(調査とりまとめの確認等)
	3月8日	

3. 実施期間

本調査では、以下の期間において調査を実施、結果のとりまとめを行った。

調査実施期間：2020(令和2)年9月～2021(令和3)年10月

4. 調査の対象・体制等

下表の分類群・時期を対象に、主として希少種（環境省及び千葉県等のレッドデータブック掲載種）、外来種（特定外来種他）、指標種（現戦略で設定している指標種）を対象に生息・生育種の種名とその確認場所、生息環境上の課題の調査・記録を行った。

表2 対象分類群・調査実施時期（案）

対象分類群／調査時期	春季	夏季	秋季	冬季	備考
植物	●	●	●		
鳥類	●	●	●	●	渡り、繁殖に留意
両生類・爬虫類	●	●	●		早春は春季に含む
魚類	●	●	●	●※	※冬季の生物多様性を高めることを視野に調査実施
昆虫類	●	●	●		
哺乳類	(任意調査)				調査員による任意の確認報告
歴史	重要拠点である「江川地区」の歴史的背景に係る調査				

表3 調査体制

対象区分	調査員
植物・植生	野田自然保護連合会（なかよし自然隊）： <u>岩槻秀明氏</u> 三ツ堀里山自然園を育てる会： <u>土屋守氏</u> 利根運河の生態系を守る会： <u>柳沢朝江氏</u> 、内海陽一氏、宮原久子氏、菊地洋子氏
鳥類	野田自然保護連合会（グループうえっと）： <u>柄澤保彦氏</u> 、上原京子氏 利根運河の生態系を守る会： <u>紺野竹夫氏</u> 野田自然保護連合会（野田野鳥同好会）： <u>田中勝美氏</u> 、山中啓司氏、富岡美枝子氏、茂田井加代子氏、甲斐美津子氏、和山重司氏
両生類・ハ虫類	野田自然保護連合会（なかよし自然隊）： <u>岩槻秀明氏</u>
魚類	野田自然保護連合会（グループうえっと）： <u>柄澤保彦氏</u> 、上原京子氏 江戸川の自然環境を考える会： <u>田中利勝氏</u>
昆虫類	野田自然保護連合会（なかよし自然隊）： <u>岩槻秀明氏</u> 野田自然保護連合会（グループうえっと）： <u>柄澤保彦氏</u> 、上原京子氏 江戸川の自然環境を考える会： <u>田中利勝氏</u> 野田昆虫談話会： <u>柳澤勉氏</u> 、小泉雅弘氏、井上雅博氏、小山翔氏、石川和馬氏、徳永さと子氏
哺乳類	※任意調査（他分類群調査時の目撃・痕跡等情報による）
歴史	東葛自然と文化研究所： <u>新保國弘氏</u>

（表中の下線表示は、調査員会メンバー。所属は2020（令和2）年9月調査開始時点）

表4 調査方法

対象区分	調査員	調査方法
植物・植生	岩槻秀明氏	目視・一部採集、写真
	土屋守氏	目視・一部採集
	柳沢朝江氏	ラインセンサス、一部採集
鳥類	田中勝美氏	ラインセンサス（双眼鏡・プロミナ） ※60分～90分/調査地点
	紺野竹夫氏	ラインセンサス（双眼鏡）、一部写真判定
	柄澤保彦氏	目視
両生類・ハ虫類 魚類	田中利勝氏	目視・一部採集
	柄澤保彦氏	目視、採集
	岩槻秀明氏	目視
昆虫類 (※)	柳澤勉氏	採集、目視、写真
	柄澤保彦氏	目視・一部採集
	田中利勝氏	目視・一部採集
	岩槻秀明氏	目視・一部採集、写真
歴史	新保國弘氏	文献調査、ヒアリング

※昆虫類調査：ライトトラップ調査・ベイトトラップ調査は実施していません。



調査実施の様子

表5 担当調査地・分類群

代表調査員 調査地		岩槻秀明 氏	柄澤保彦 氏	紺野武夫 氏	田中勝美 氏	田中利勝 氏	土屋守氏	柳澤朝江 氏	柳澤勉氏
1	中戸谷津	● ●			●	● ●			
2	関宿落堀ビ オトープ	● ●			●	● ●			●
3	五駄沼付近	● ● ●		●	●				
4	尾崎金島地 区	● ●	● ● ●						
5	小船橋水辺 公園付近	● ●	● ● ●		●				●
6	はきだし沼	●	● ●						
7	座生調整池		● ●		●		●		●
8	柳沢西山市 民の森・柳 沢北耕地市 民の森		● ●		●		●		●
9	木野崎城下			●	●	● ●		●	
10	三ツ堀里山 自然園		● ●	●	●	● ●	●		●
11	二ツ塚			●	●			●	●
12	南部耕地 (鳥類のみ)				●				
13	江川地区			●	●	● ●		●	
備考				猛禽類	鳥全般			+利根運河	

(凡例) ● : 植物、● : 鳥類、● : 爬虫類・両生類・魚類、● : 昆虫類

5. 調査地点

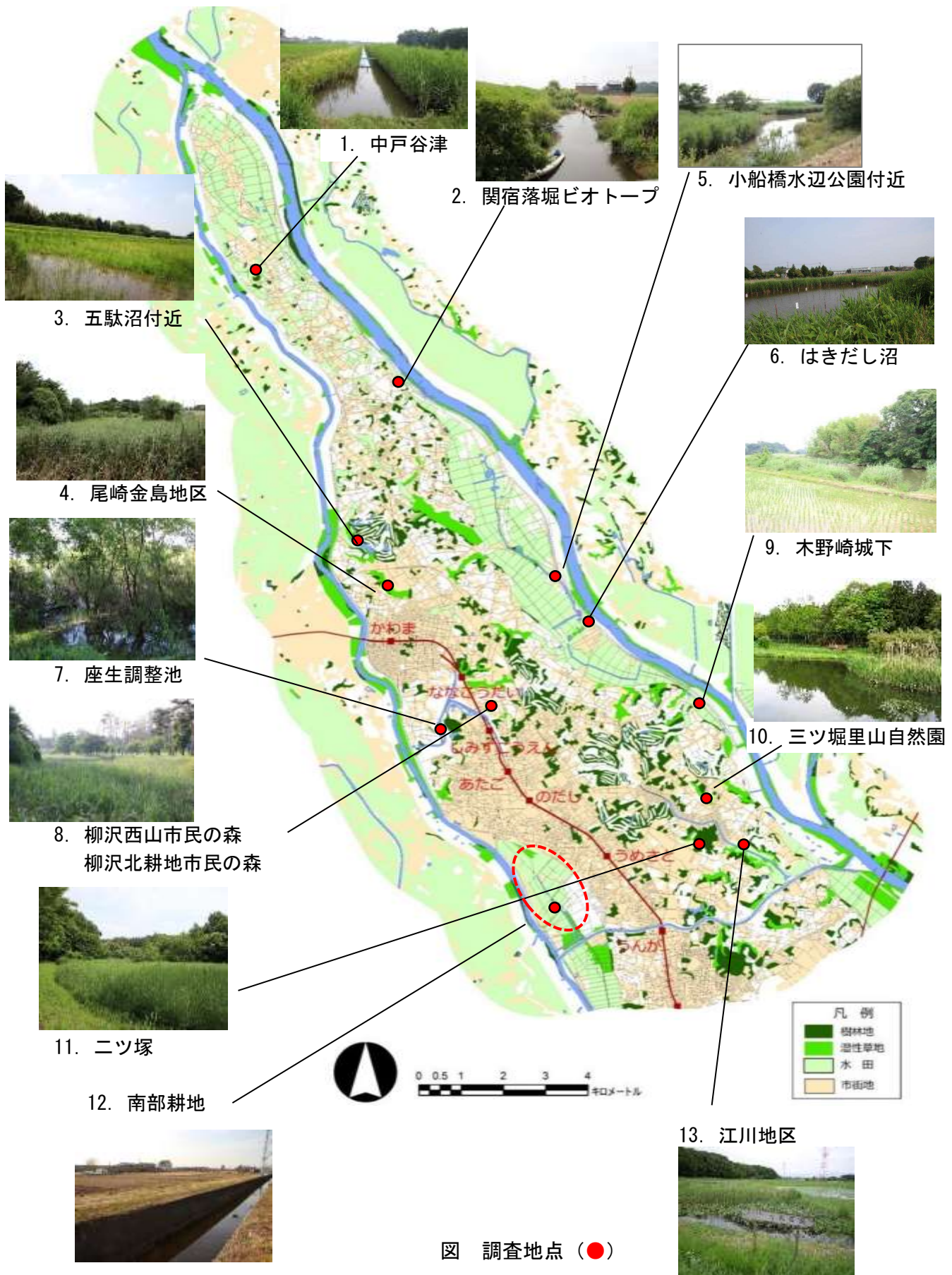
調査地点の選定については、下記の各点に留意するとともに、調査員等へのヒアリングに基づき、次表及び次図に示す**13地点**を選定し、調査を実施した。

<選定上の留意点>

- 現戦略策定時に実施した 15 地点をベースに調査地点を選び、前回調査との比較により環境の変化や取組みの進捗、課題の把握を行う。
- 野田市の生物多様性を保全する上で特に重要と考えられる自然拠点を含める。
- 野田市の自然環境の特性の把握を行う上で必要と考えられる地点の抽出に留意する。
- 野田市域の一部のエリアに調査地点が偏らないよう留意する。
- 上記の観点から必要に応じ調査地点の追加についても検討を行う。

表6 調査地点

No.	地点名	今回調査	前回調査	主な環境
—	関宿台町上谷中	—	●	利根川沿いの水田地帯、用水路
1	中戸谷津	●	●	市関宿斎場の樹林から周辺の水田、用水路 ※植物：関宿橋付近までの江戸川沿いを含む
2	関宿落堀ビオトープ	●	●	ビオトープとして整備された用水路、堤防法面（草地）、隣接する水田
3	五駄沼付近	●	●	五駄沼に流出入する用水路、周辺水田、林縁
—	阿部島～船形北谷津	—	●	耕作放棄地、用排水路
4	尾崎金島地区	●	—	尾崎谷津（湿地、斜面林、水路）
5	小船橋水辺公園付近	●	●	小船橋水辺ビオトープ付近及び周辺水路
6	はきだし沼	●	●	沼
7	座生調整池	●	●	調節池内湿地、周辺斜面林
8	柳沢西山市民の森	●	●	樹林、樹林内湿地
	柳沢北耕地市民の森		西山のみ	樹林、隣接調節池
—	目吹中高野	—	●	放棄水田、水路、水田
9	木野崎城下	●	●	ため池、水田、用水路
—	上鹿野	—	●	草地（荒地）、放棄水田、用水路、やぶ、竹林
—	大殿井	—	●	放棄田、土水路、斜面林
10	三ツ堀里山自然園	●	—	自然園内および隣接緑地
11	二ツ塚	●	●	湿地（休耕田）、隣接湿生林、水路、斜面林
12	南部耕地（今上女躰神社周辺） ※鳥類のみ継続実施	●※	●	広大な水田地帯一体
13	江川地区 ※植物のみ利根運河も実施	●	—	水田、湿地、斜面林、水路



Ⅱ. 調査結果

1. 自然環境調査

1-1 分類群ごとの調査結果

調査対象とした、植物、鳥類、爬虫類・両生類・魚類、昆虫類、およびその他の分類群に係る任意情報に分けて整理した。

(1) 植物

全調査地で確認された植物は、140科792種であった。

確認種のうち、環境省レッドデータリスト^{※1}掲載種は21種、千葉県レッドデータブック^{※2}掲載種は49種が確認されており、中には市内でも確認できる場所が限られてきている種もある。一方で、外来種・栽培種が207種と、確認種全体の4分の1(26.1%)以上を占めており、在来種への影響が懸念される。

水田雑草の類が豊富で希少な水草も多く、水田環境の維持が望まれる。一方でかつて市域に多く見られた池沼の埋め立てと共に生育していた浮葉・水中植物も消失している。また、適度に人の手が入った森が減少しており、そういった森・雑木林に依存する種が減少している。

また、「河川水辺の国勢調査」(国土交通省実施)では、野田市周辺の江戸川・利根運河^{※3}における調査で合計529種が確認されており、そのうち環境省レッドデータリスト掲載種16種、千葉県レッドデータブック掲載種32種、外来種158種となっている。外来種が占める割合は約30%と、今回の調査結果より更に大きな割合を占めている。

※1 環境省レッドデータリスト：日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト

※2 千葉県レッドデータブック：千葉県の保護上重要な野生生物の情報をとりまとめたデータブック

※3：植物は利根川の野田市域調査地点なし。

■確認された植物の例



アレチウリ (外来種)



タコノアシ



シロバナサクラタデ



ハンノキ



ヤブミョウガ



キクイモ



ナキリスゲ



カントウヨメナ



ハッカ



キンラン



サイハイラン



モウソウチク



アケビ



カントウタンポポ



アリアケスミレ



クサギ



コバギボウシ



ツルドクダミ



ナンバンギセル



サクラオグルマ



ミジンコウキクサ

※写真提供：柳沢朝江氏、土屋氏、宮原氏（前ページ含む）

(2) 鳥類

全調査地で確認された鳥類は、36科100種であった。

確認種のうち、環境省レッドデータリスト掲載種は10種、千葉県レッドデータブック掲載種は46種と、希少種が全確認種の46%を占めている。外来種は1種であった。

生態系の上位種である猛禽類も、確認された7種のうち6種が環境省または県のレッドデータブック掲載種である。市内では、繁殖地と越冬地を行き来する「渡り」の途中で一時期を過ごしたり、通過する様子なども観察され、市域で繁殖する種の他、渡りの中継地として市域を利用する種にとっても重要な生息環境を提供している。一方で猛禽類の繁殖地が激減しており、宅地開発や大面積での太陽光発電パネルの整備などによる、まとまった規模の樹林地の開発が進んできたことが一因と考えられる。

「河川水辺の国勢調査」(国土交通省実施)の野田市域の利根川・江戸川・利根運河における調査では合計117種、環境省レッドデータリスト掲載種14種、千葉県レッドデータブック掲載種50種、外来種3種が確認されている。

■確認された鳥の例



アオサギ *



コウノトリ(J0155・ヤマト)



タゲリ



カルガモ



カワセミ



キジ



サシバ *



チョウゲンボウ *



トビ *



オオタカ *



ノスリ *



ハイタカ *

(写真提供 *印：紺野氏撮影、無印：(公財)日本生態系協会撮影)

(3) 爬虫類・両生類・魚類

① 爬虫類

全調査地で確認された爬虫類は、5科9種であった。9種のうち、カメの仲間が2種、トカゲの仲間が2種、ヘビの仲間が5種であった。また、環境省のレッドデータリスト種の確認はなかったものの、9種のうち7種と多くが千葉県レッドデータブック掲載種であった。外来種はアカミミガメ1種であったが、市全域の水域で確認されており生息数・範囲を拡大している。また、今回の調査では確認されなかったが、特定外来生物のカミツキガメが江川地区で確認されたことがあり、引き続き注意が必要である。

「河川水辺の国勢調査」(国土交通省実施)では、野田市周辺の利根川・江戸川・利根運河における調査で10種が確認されており、環境省レッドデータリスト掲載種は0種、千葉県レッドデータブック掲載種は7種であり、今回の調査で確認されていないのは、ニホンマムシ、ニホンヤモリの2種類であった。

■確認された爬虫類の例



アカミミガメ



ニホンカナヘビ

※写真提供:小泉氏・徳永氏

② 両生類

全調査地で確認された両生類は全てカエルの仲間、5科7種であった。確認種のうち、環境省レッドデータリスト掲載種1種、千葉県レッドデータブック掲載種4種、国内由来の外来種を含む外来種が2種確認された。野田市域にもともと生息していたカエル類の多くが現在でも確認されているが、田んぼの乾田化など湿地の減少、湿地周辺の樹林の減少などにより、個体数は減少している。近年では、国内移入種であるヌマガエルが非常に多く見られるようになっている。

「河川水辺の国勢調査」(国土交通省実施)では、野田市周辺の利根川・江戸川・利根運河において合計7種が確認されており、うち環境省レッドデータリスト掲載種1種、千葉県レッドデータブック掲載種3種、外来種が2種であった。全て今回の調査で確認された種であった。

■確認された両生類の例



トウキョウダルマガエル



ニホンアカガエル



ヌマガエル

※写真提供:小泉氏・徳永氏

③ 魚類

全調査地で確認された魚類は、8科25種であった。25種のうち、環境省レッドデータリスト掲載種8種、千葉県レッドデータブック掲載種7種、外来種6種が確認されている。

座生調節池近くの座生川において生きものの生息に配慮した護岸整備が行われている他、江川地区では水田・水路・河川との連続性確保や冬期湛水などの取組みが行われ、かつて市内に多く分布した池沼の一つとして「はきだし沼」が保全されるなど、水域環境の保全が図られている一方で、市全体としては水路や河川の人工的・直線的な整備や水田の乾田化、水田と水路・水路と河川等の水域連続性の低下などによる魚類の生息・繁殖適地の減少が進んでいる。

「河川水辺の国勢調査」(国土交通省実施)では、野田市周辺の利根川・江戸川・利根運河において以下の43種が確認されている。水域環境においては、それぞれの水域環境の状況とともに、水域間を魚等が移動できる連続性が生息魚類の種類や個体数に大きく影響するため、利根川・江戸川と、堤内地水域との連続性にも留意していく必要がある。

■ 確認された魚類の例



モツゴ



カダヤシ

(4) 昆虫類

全調査地で確認された昆虫類は、148科584種であった。

確認種のうち、環境省レッドデータリスト掲載種は11種、千葉県レッドデータブック掲載種は46種、外来種（国内由来の外来種含む）は16種であった。

種類数だけでなく個体数も減少しており、特にトンボ目を含む水生昆虫の減少傾向が著しいとの報告があった。浮葉植物や沈水植物など水草のある池の減少、耕作放棄水田の増加により、かつて普通に見られていた種が急に減少したり姿を消した例も少なくない一方、国内移入種や外来種が生息数・範囲を広げている。

「河川水辺の国勢調査」（国土交通省実施）では、野田市域の利根川、江戸川、利根運河における調査で確認総種数1232種、そのうち環境省レッドデータリスト掲載種12種、千葉県レッドデータブック掲載種35種、外来種1種（ブタクサハムシ）が確認されている。

■調査で確認された種の例



クロコノマチョウ



アサマイチモンジ



キンケハラナガツチバチ



オオアオイトトンボ



オオカマキリ



ツチイナゴ



オオカマキリ（卵囊）



ミドリシジミ（卵）



トホシテントウ



コムラサキ



ビロウドコガネ



ナナフシモドキ



オオヒラタシデムシ



ハグロハバチ幼虫



ホシハラビロヘリカメムシ



ウスバカミキリ



ヤマトシジミ



ヒメギス



アカボシゴマダラ幼虫



アサマイチモンジ卵



オオスズメバチ



ムラサキシジミ



シオヤアブに捕食された
オオシオカラトンボ



ノコギリクワガタ

※写真提供：小泉氏、柳澤勉氏、徳永氏、石川氏、井上氏

(5) その他の確認種

調査対象とした6分類群のほか、任意での確認状況を参考情報として以下に整理する。なお、任意情報であるため、全ての調査地点・季節を対象としたものではない。

① 哺乳類

哺乳類については、今回は他の調査実施時に確認できた場合に報告頂く任意報告とし正式な調査対象ではなかったが、8科8種の確認が報告された。哺乳類は、人を避けて行動するため、直接目撃することは難しいが、今回、目撃のほか、痕跡（糞や塚）、ロードキル（轢死体）による確認が得られた。今回、ロードキルの報告は1件であったが、利根川や江戸川の河川敷沿いには交通量が多い道路、夜間にスピードを出しやすい直線距離の長い道路が走っており、河川敷と堤防を挟んだ水田地帯・樹林地など広範囲を日常的に移動しながら過ごすキツネやイタチ、タヌキ等の哺乳類の生活圏の分断となっていると推測される。また、特定外来種のアライグマや重点対策外来種であるハクビシンが複数の調査地で確認されており、農作物への被害の他、在来種への影響も懸念される。

「河川水辺の国勢調査」（国土交通省実施）による野田市域の利根川、江戸川、利根運河での調査では23種が確認され、うち千葉県レッドデータブック掲載種5種、外来種3種が確認されている。

② 甲殻類・クモ類・貝類

水生動物としてのエビの仲間（甲殻類）や、クモ類、貝類等も、今回の調査対象ではないが、任意情報として、甲殻類10科13種、貝類21科32種、クモ類14科66種の確認が報告されており、中には環境省レッドデータリスト、千葉県レッドデータブック掲載種も含まれている。

■調査で確認された種の例



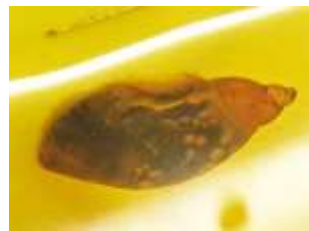
モグラ塚



タヌキのため糞



ミスジマイマイ



モノアラガイ



カワリヌマエビの仲間



ナガコガネグモ



ジョロウグモ



ネコハエトリ

※写真提供：小泉氏、徳永氏、日本生態系協会

1-2 調査地点ごとの調査結果

下表に示す調査地点ごとに、各分類群の確認種数、調査概況について整理する。

表7 調査地住所

No.	調査地名	調査範囲等	住 所
1	中戸谷津	野田市関宿斎場の樹林から周辺の水田、用水路 ※植物:関宿橋付近までの江戸川	中戸谷津
2	関宿落堀ビオトープ	ビオトープとして整備された用水路、堤防法面(草地)、隣接する水	木間ヶ瀬新田
3	五駄沼付近	五駄沼に流入する用水路、周辺水田、林縁	東金野井～中里
4	尾崎金島地区	尾崎谷津(湿地、斜面林、水路)	尾崎
5	小船橋水辺公園付近	小船橋水辺ビオトープ付近及び周辺水路	小山
6	はきだし沼	沼	船形
7	座生調整池	調節池内湿地、周辺斜面林	桜の里
8	柳沢西山市民の森 柳沢北耕地市民の森	樹林、樹林内湿地 樹林、隣接調節池	柳沢
9	木野崎城下	ため池、水田、用水路	木野崎
10	三ツ堀里山自然園	自然園内および隣接緑地	三ツ堀
11	二ツ塚	湿地(休耕田)、隣接湿生林、水路、斜面林	二ツ塚
12	南部耕地	広大な水田地帯一体	今上～上花輪
13	江川地区	水田、湿地、斜面林、水路	瀬戸(飼育棟～右岸側斜面林) 三ツ堀(江川左岸側) 下三ヶ尾(江川右岸側)

※次ページ以降、調査地点個票への掲載事項：

- ・ 主な調査範囲：調査を行った主な範囲を赤枠で表示
(分類群の特性に応じ、赤枠を中心に広がりを持って調査を実施)
- ・ 調査地の景観：代表的な景観の写真を掲載
- ・ 調査による確認種数：分類群ごと・季節ごとの確認種数を掲載
- ・ 環境概況：調査員による調査地環境に関するコメントを掲載



田んぼ脇土水路は湧水が入りこみ冬季も湛水がある。

田園地帯中央の用排水路も護岸内側にヨシが繁茂。斎場のまとまった樹林がある

確認 種数	区分	植物	鳥類	両生類	爬虫類	魚類	昆虫類
	春季	125	30	4	4	5	73
	夏季	184	16	3	2	11	33
	秋季		26	3	1	7	39
	冬季	—	30	0	0	4	—
	計	242	46	4	5	11	105

- 水田が広がる浅い谷津の環境で、付近の水田には多様な水生植物が生育している。
- 斎場出入口付近樹林地で太陽光発電等の開発計画があり、伐採等による影響が懸念される。
- 関宿の中でも唯一残る野鳥が生息する樹林地であり、保全が必要。
- もうアカガエルはいないとされていたが、森に近い休耕田で干上がった卵塊を確認。
- 水路に釣り人が多い。アカミミガメも非常に多く生息している。

2

関宿落堀ビオトープ



ビオトープ上流側の様子

落堀ビオトープ。木道が整備されている

確認 種数	区分	植物	鳥類	両生類	爬虫類	魚類	昆虫類
	春季	111	33	3	3	5	91
	夏季	192	21	3	2	6	47
	秋季		23	3	2	6	68
	冬季	—	30	0	1	3	—
	計	240	45	3	4	11	150

- 水路、田圃、斜面林、利根川堤防の草地などもあり、水路には木道が整備され、自然観察を行う場所として良好。地元からも子どもたちの自然体験の場として活用したいという声もある。
- 水路の木道は、日によっては釣人に占拠され、ドブガイを放流する人もおり、利用マナーなど対策が必要。
- 付近には希少種の自生地などもあるが、水田周辺では除草剤が散布されている。
- 不法投棄のゴミや水路を通じて漂着したゴミが散乱しており、ビオトープとしての環境・景観保全が必要。外来種であるアカミミガメが非常に多く生息している。

3

五駄沼付近



土水路・湧水のある水田と斜面林

五駄沼に通じる用水路

確認 種数	区分	植 物	鳥 類	両生類	爬虫類	魚類	昆虫類
	春季	75	44	5	2	2	98
	夏季	39	32	5	3	3	147
	秋季	142	32	2	0	2	71
	冬季	—	39	0	0	0	—
	計	203	57	5	3	4	178

- 水田、池、樹林が一体的な環境となっており、良好な里山景観が残されている。
- 水田は圃場整備されておらず土水路が残っており、斜面林沿い水路には湧水が流れている。
- 池の大部分は釣り堀として利用されているが、池の面積が大きく江戸川からも近いこともあり、水鳥が多く飛来する。

4

尾崎金島地区



谷津中央を流れる水路（毘沙門天堂近く）



香取神社付近から谷津上流付近

確認 種数 (※)	区分	植 物	鳥 類	両生類	爬虫類	魚類	昆虫類
	春季	152	26	1	0	0	62
	夏季	155	15	2	3	0	102
	秋季		18	1	2	0	110
	冬季	—	20	1	0	0	—
	計	240	37	3	4	0	199

- 水路に網を仕掛けたが収穫がなかった。

(※) 2020年7月29日に実施した調査結果を含みます。

5

小船橋水辺公園付近



水辺に木道が整備されており湿地林の中を歩けるようになっている。

木道整備部分より少し下流は護岸の内側にヨシ原が発達し浅い場所もある。

確認 種数	区分	植 物	鳥 類	両生類	爬虫類	魚 類	昆虫類
	春季	98	26	0	0	0	19
	夏季	78	24	3	1	1	77
	秋季	133	29	2	3	1	72
	冬季	—	25	0	0	0	—
	計	205	42	3	3	2	126

- 関宿落堀の一角につくられたビオトープ型親水公園。公園は草地環境、水路は抽水植物が多く、一部はヤナギ等の疎林となっている。周辺は水田が広がっている。
- 花壇があるが、野草に覆われている。公園内も草が繁茂している。ゴミの不法投棄も見られ、管理が必要。

6

はきだし沼



沼でみられるトンボの仲間を紹介する看板が設置されている。

市民団体による保全・管理活動が行われている「はきだし沼」。

確認 種数	区分	植 物	鳥 類	両生類	爬虫類	魚類	昆虫類
	春季	85	25	3	3	3	37
	夏季	68	19	4	2	4	92
	秋季		16	3	2	6	96
	冬季	—	25	0	1	0	—
	計	131	39	4	3	7	140

- かつて付近に多く点在していた、ため池の一つ。面積は小さいが多様なトンボ類が確認されている。
- ヒシの復活が試みられているが、コイの食害により定着していない。



調査対象とする第4調整池。座生川が増水した時に越流堤を越えて水が入る他、日常的にも排水口から水が流れ出ている。

第4調整池西側の遊歩道

周辺台地との間の斜面林も残されており湿地と樹林地を移動する生き物が生息可能。

確認 種数	区分	植 物	鳥 類	両生類	爬虫類	魚類	昆虫類
	春季	116	34	0	1	1	82
	夏季	36	25	0	0	1	45
	秋季	119	26	0	4	7	82
	冬季	—	45	0	0	0	—
	計	258	55	0	4	7	140

- 第4調整池は生き物の生息環境に配慮した整備が行われた。近くの座生川では生きものの生息に配慮した護岸整備がされている。調整池周辺には遊歩道が整備され、市民の利用も多い。
- 調整池が低木で覆われ観察が困難になりつつあり、水面が見られるような対策が必要。
- 調整池だけでなく、座生川とのつながりや隣接する斜面林の存在があることで、それらを組み合わせる多くの生き物の生息が可能となっていると推測される。



柳沢西山市民の森：湿地とそれを囲む斜面林からなる。樹林は常緑樹も多く暗い。



柳沢北耕地市民の森：よく管理された明るい樹林。

調整池・ゴルフ場が隣接し一体的な環境となっている。

確認種数	区分	植物	鳥類	両生類	爬虫類	魚類	昆虫類
	春季	88/78	16/25	1	0	1	54

	夏季	53/36	11/15	2	1	1	100
	秋季	110/114	15/22	1	0	0	67
	冬季	—	19/38	0	1	1	—
	計	238/216	25/41	2	2	1	151
※植物・鳥類の種数表記：西山/北耕地。他は合計値							

<柳沢西山市民の森>

- 樹林は管理されておらず、常緑の樹木が密に生育し、林内はうっぺい状態で暗く、下草が少ない。通路の倒木は放置され、湿地部分の通路にある丸太橋が朽ちているなど危険。
- 森の周囲の舗装道路脇から森の入口付近にかけて、ゴミの投棄が目立つ。
- 谷津の奥部から下水が流れ込んでいるのかドブ臭がある。
- 湿地内私有地の一部が野菜くずなどの捨て場となっている。
- 隣接の柳沢小学校庭の樹林は山野の小鳥が飛来し重要な野鳥ポイントとなっている。その点市民の森の重要性がある。
- 現在の市民の森は、隣接する私有地の湿地や斜面林をあわせた一体的な谷津環境として、良好な自然環境・景観を呈している。

<柳沢北耕地市民の森>

- 落葉高木がやや疎らにある樹林は、よく管理されており林内は明るくゴミの投棄も少ない。林床は低い笹が繁茂しているが、その間に草本類や中低木が点在する。
- 部分的にオオブタクサの進入が見られ、環境の悪化が懸念される。
- コナラ、クヌギは少なく昆虫類はあまり多くない。
- 隣接するゴルフ場の草地や周辺の樹林、調整池と一体的な空間となっている。
- 調整池は冬ガモの隠れ家となっている。
- 住宅地や小学校から近く、環境学習のフィールドワーク地点としても活用しやすい。
- 人家に面した林縁は栽培品の放棄が多く、複数の栽培種が見られ、群落を広げている種もある。一方で明るい林床に生育する希少な種も確認されている。

9

木野崎城下



ため池ではミシシippアカミミガメが多数確認

池周辺水田ではカエル類が多数生息

冬期湛水田には江（クリーク）や魚道が設置されている

確認種数	区分	植物	鳥類	両生類	爬虫類	魚類	昆虫類	
	春季	159	27	4	3	1	24	
	夏季	107	27	4	3	4	107	
	秋季	169	32	3	2	10	72	
	冬季	—	—	36	1	1	14	—
	計	282	51	51	4	4	16	146

- 水田の転作による大豆畑が増え、生態系が変化しつつある。
- 昔のため池が残っており多くの生き物の拠り所となっている。
- 利根川沿いにあり、猛禽類の飛来も多く繁殖も確認されているが、心無いカメラマンによる行動が原因となった営巣放棄も発生している。

10

三ツ堀里山自然園



湛水水田

入り口付近の樹林。オオブタクサが侵入。

確認 種数	区分	植 物	鳥 類	両生類	爬虫類	魚類	昆虫類
	春季	138	24	3	2	2	93
	夏季	40	18	4	2	4	173
	秋季	169	28	3	3	2	116
	冬季	—	28	1	0	0	—
	計	322	42	5	4	4	265

- ボランティア団体が草刈りなど、園内の管理を行っている。
- きれいに除草されすぎて生きものの隠れられる場所が少ない場所がある。中之島は低木と葦原がありガンカモ類の棲家としては環境が良くなった。
- 外来のコイ、アカミミガメが繁殖している。
- 家族づれも含め、散策・昆虫採集等、人の利用が多い。園内は採集禁止としているが、看板が小さいのか、ルール・マナーが浸透していない。
- 在来種が衰退し、雑種や栽培種が増えているのが懸念される。



水田放棄後の湿地（ヨシ原）、奥の樹林下を水路が流れている

ハンノキ林、林床は年間を通じて湿っている

確認種数	区分	植 物	鳥 類	両生類	爬虫類	魚類	昆虫類
	春季	221	27	1	0	0	100
	夏季	115	16	0	2	0	136
	秋季	195	19	0	0	0	87
	冬季	—	22	0	0	0	—
	計	289	35	1	2	0	224

- 10年前と比べると、田圃の休耕・荒廃が進んでいる。一見、谷津の景観が保たれているが、かつて田んぼだった場所は一面ヨシ・オギ群落となっており、低木も繁茂、ハンノキも高木化、一部にゴミの不法投棄もみられる。当時はホタルも生息・繁殖していた。野鳥も種が減っている。
- 谷津周辺にもまとまった樹林地が広がっており、猛禽類にとっても重要な環境となっているが、かつてと比べると規模が縮小している。

1 2

南部耕地 (鳥類のみの調査地)



女尾神社と隣接水田。

耕地中央を流れる農業用排水路と水田。水路は人工的で耕地全体としても自然環境としての多様性は乏しいが、広大な水田地帯となっている。

確認
種数

区分	鳥 類
春季	27
夏季	24
秋季	28
冬季	28
計	50

- まとまった面積の水田地帯であり、野鳥にとって重要な環境となっている。船形耕地とならんで猛禽類のほか、ムナグロなど多くの渡り鳥が飛来する。市内でも唯一の旅鳥の飛来地として重要な地区。
- 全体的としては水田乾燥化が進んでおり、野鳥が少なくなっている。ただし、豊富な水量のある幹線水路があるため、シギやカワセミなど水鳥が飛来する。
- 田園地帯の中を通る車道は市東側の幹線道路は車の通りが多く、小動物にとって生息空間の分断になっていると推測される。



広谷津の周りを斜面林が囲うように残る。

江川水路や小水路に魚道を設置している。

斜面林際には湧水が流れ込む用水路がある

確認種数	区分	植物	鳥類	両生類	爬虫類	魚類	昆虫類
	春季	235	31	5	0	5	36
	夏季	113	25	4	1	14	61
	秋季	212	36	4	2	4	50
	冬季	—	38	1	0	1	—
	計	375	59	6	2	15	105

※利根運河沿い（野田市域・植物のみ調査地）：確認種数春 135、夏 110、秋 108、計 198 種

調査地概況

- かつての休耕田を復田して水田型の市民農園として米作りが行われており、市の条例をもとにした斜面林保全など、コウノトリをシンボルとした環境にやさしい環境づくりの拠点地区となっており、良好な里山景観が保全されている。
- 冬季に田んぼに水をためる冬期湛水や土水路の保全、魚道の設置、ビオトープ水田の整備等、

生きものを増やすための取組みが行われており、多くの水鳥の飛来が確認されているほか、希少な水生昆虫なども確認されている。周辺斜面林沿いに湧水を集めて流れる水路では、ヘイケボタルの自然発生が確認されている。

- 斜面林の林床では、多くの野草の生育が確認されている。
- 外来種のウチワゼニクサ、アメリカザリガニ、カダヤシなどの増加が懸念される他、カミツキガメなども確認されている。
- 地区内を流れる江川は利根運河を通じて江戸川・利根川ともつながり、魚等の移動経路となっている。大雨の際には水田や水田周辺水路に魚が入ってくる。

<利根運河>

- 利根運河沿いには、野田市江川地区・今上耕地、東京理科大学理窓公園、柏市大青田、流山市などの自然、環境空間が広がっている。
- 江戸川河川事務所が事務局の協議会が設置されており、関係主体の連携・協働による、外来種駆除、運河と堤内地水路との水域連続性の確保、運河法面に生育する希少種の保全などの取組が行われている。

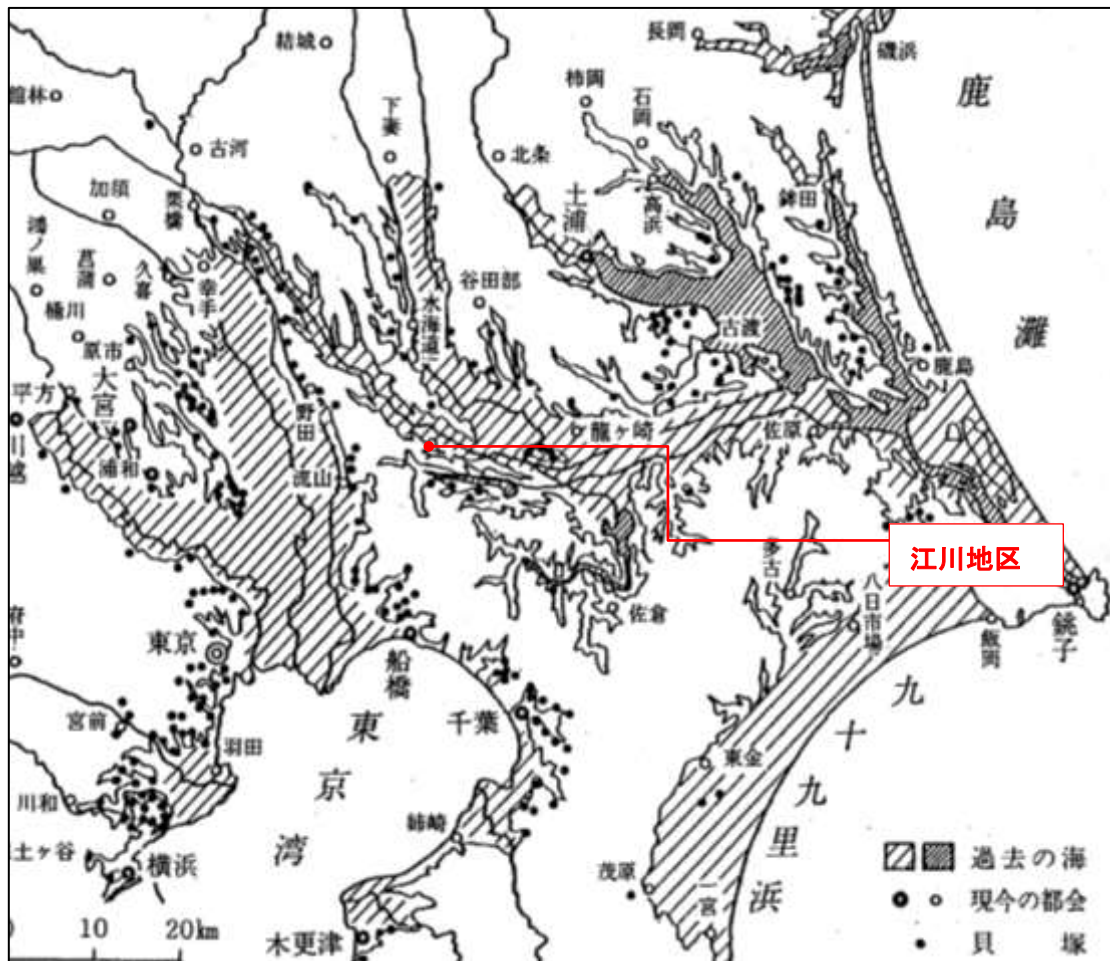
2. 歴史環境調査

今回、生きもの調査の調査地点でもある「江川地区」について、その歴史的な経緯の中での自然との関わりを対象として調査を実施しており、提供頂いた調査結果をもとに、「野田市江川地区の自然と歴史&伝統の魅力7選」として、以下の7つの観点からとりまとめを行った。

- 魅力1 浅い海が広がっていた江川地区（縄文時代）
- 魅力2 そうまみくりや 相馬御厨（平安時代）
- 魅力3 幕末の江川地区と江川いりひ堤ひ（江戸時代）
- 魅力4 江川堤跡に残る農業遺跡「いりひ堤ひ」（江戸～明治時代）
- 魅力5 三ヶ尾沼（明治）
- 魅力6 福田村江川耕地組合設立許可申請書（明治・大正）
- 魅力7 江川耕整記念碑（昭和）

魅力1 浅い海が広がっていた江川地区

- 江川地区の「五の橋」を渡る手前の左手水田の端で行われた機械ボーリング調査により採取された貝化石は、深度3.7~14.5mまでで、二枚貝12種、巻貝19種の合計31種。全て現生種で、ハイガイを除き、東京湾を中心に南関東沿岸で生息している種であった。
- この調査から、江川地区（江川低地）は、**縄文海進時代**、東西北総台地に挟まれた浅い海が広がる干潟環境であったことが確認されている。



関東平野における貝塚の分布からみた縄文海進時の陸と海の分布図（東木龍七, 1926）に加筆
（地図の出典：『貝が語る縄文海進 増補版』松島義章, 有隣書院, 平成22年）

江川谷底低地2地点の古環境の変遷と海水準変動

- ① 9000年前頃に縄文海進で海水が到達、塩生湿地環境から干潟が形成
- ② 海水準が更に上昇、8500年前頃には海水が到着
- ③ およそ2500年間、内湾が形成されていたのでは
- ④ その後、海退に転じ、6000年前に干潟が形成
- ⑤ 5000年以降、更に海退が進み、干潟から塩生湿地に変化
- ⑥ さらに海退により淡水化が進み、4500年前頃に淡水湿地に変化
- ⑦ その後の耕作により、その後の記録は消失

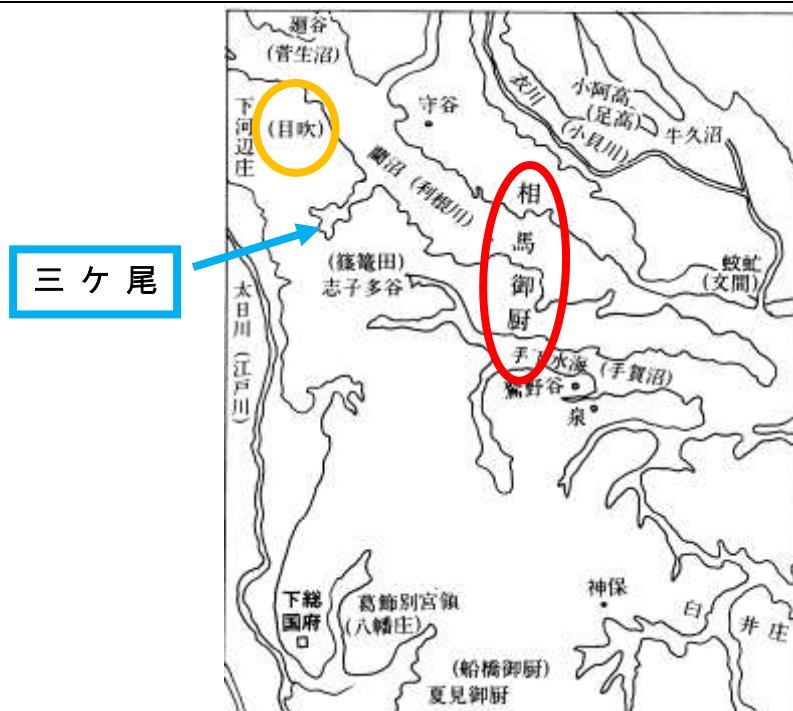
■江川地区の自然環境年表

※『野田市古環境調査地質柱状図集』（野田市、平成 22 年）及び『貝が語る縄文海進 増補版』（松島義章、有隣書院、平成 22 年）等を引用・参考にしながら、新保氏が作成。

時 代	様 相
約 2 万～1 万 8 千年前 (最終氷河期寒冷期)	海面が現在よりマイナス 100～120m 前後で、東京湾は未だ陸地状態であった。
約 1 万 5 千年前	地球規模の温暖化が始まり陸地への海水の侵入が始まる。 ★この頃の江川地区は、海水は未だ入っていなかった。
約 1000～9000 年前 (縄文時代草創期)	温暖化が進行して、海面が現在よりマイナス 40m 前後になる。
約 7700 年前	★江川地区に縄文海進による海面の上昇によって海水が入ってきて古江川湾（古江川の入江）が誕生した。海水侵入によって泥質の干潟に最初に生息した貝はマガキなどの干潟群集であった。
約 7500～7000 年前 (縄文時代早期中頃)	海面が現在よりマイナス 10～15m 前後になる。 ★海面の上昇で古江川湾は、上流へと拡大していったが、後背地が台地のために、上流から粗粒物質の搬出はなく、シルトや粘土などの細粒物質が堆積して泥深い内湾環境状態となった。
約 6500～5500 年前 (縄文時代早期末～前期、縄文海進最盛期)	海が最も陸地の奥に侵入した時期で、海面が現在より 4～5m 前後高く、複雑な海岸線を持った入江が形成された。 この時代、江川低地の浅瀬にはアマモの藻場ができ、スズメハマツボを主体とする藻場群集が生息した。
海進最盛期の 約 6000 年前以降	江川低地は、海面上昇が止まり、海面が安定して沿岸流の動きが活発となり、干潟の広がる内湾環境から（古江川湾は約 5500 年前まで存在）、湾口が一気に狭まり、潟、さらに汽水域の河口へと変化していった。この頃、ヌマコダキガイやヤマトシジミからなる感潮域群集が出現、繁栄した。
約 5000 年前	海面の低下が始まる。
約 4000～3000 年前 (縄文時代中期後半～後期)	縄文海進最盛期より海面が 2～3m 前後低下し、海岸線が後退した。江川の入江は、海面低下によって、沼沢地（ヨシ・ガマ・マコモなどの水草が茂る水深 1m 以内の水たまり）へと変化していった。
約 2500 年前 (縄文時代晩期末～弥生時代前期)	関東では、1m 程度の海面低下が起こり、現在と同じか、それより若干低い位置になった。
約 1500 年前 (古墳時代以降)	関東の低地は広く陸化し、古墳時代の生活の場が低地へと拡大した。
参考資料 『野田市古環境調査 地質柱状図集』野田市、平成 22 年 松島義章『貝が語る縄文海進 増補版』有隣書院、平成 22 年	

魅力2 相馬御厨 (そうまみくりや)

- 江川地区周辺は、平安時代（794-1185）に千葉氏が伊勢神宮に寄進した「相馬御厨」の一部だった。
- 野田市南端の江川地区及び周辺は、香取海、常陸川、利根川、手賀沼、印旛沼、小貝川、鬼怒川など、多くの水面の諸物質輸送のための川船海船および渡船徴発、漁業、水上交易交通などの水上支配に関する諸権限を有していた千葉常重が、同氏代々相伝の私地である下総国相馬郡の所領内の布施郷を、**大治5年（1130）頃**、伊勢皇太神宮（内宮）へ寄進して「相馬御厨（そうまみくりや）」とした由緒ある土地である。



相馬御厨位置図（千野原靖方、1995）に加筆

※布施郷の領域四至は、東が「蚊虻（かあぶ）」（茨城県北相馬郡利根町）を限境とし、西が「廻谷並東大路」（野田市目吹、菅生沼）、南が「志子多谷並手下水海」（柏市篠籠田・手賀沼）、北は「小阿高・衣河流」（茨城県筑波郡伊奈町足高・鬼怒川）を限境とする範囲。すなわち、布施郷は利根川北岸の北相馬郡全域と南岸の我孫子、柏、野田市の一部を含む極めて広大な領域であった。（「相馬御厨の由来」『利根町史(3)通史・古代中世編』利根町, 1989年）

★江戸時代以前の律令行政区画は、国一郡一里（郷）とされるが、古代律令時代でも里とは別に、村表記があり、「村」表記の特筆は地点・領域表示であり、この特質を利用して国一郡一里という律令行政機構を補完したと考えられる、と下記文献にある。

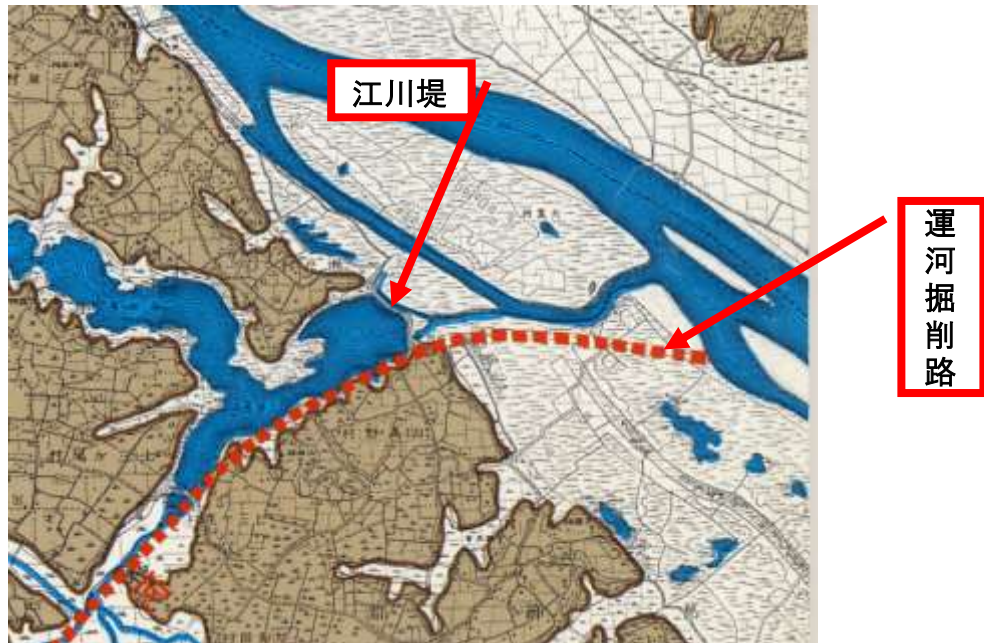
★野田市域で、地名に郷が付くものは「下河辺庄三ヶ尾郷」が挙げられる。「相馬郡布施郷」が広大にして且つ歴史価値高い土地「相馬御厨」として知られているが、「下河辺庄三ヶ尾郷」にも未知の歴史価値の存在が伺われる。

文献：平松南、古代における里と村―史料整理と文責―、国立歴史民俗博物館研究報告第108集、2003年／（例）『続日本記』神護景雲2年（768）：下総国結城郡少塩郷少嶋村

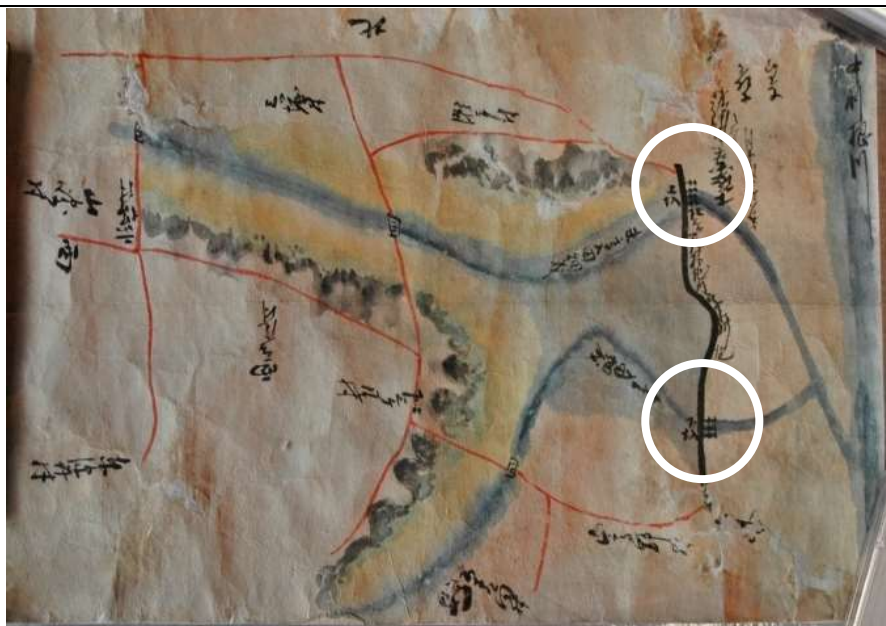
魅力3

幕末の江川地区と江川堤坎樋（いりひ）

- 江川堤には、江戸中期から北（上入）と南（下入）に計2つの坎樋があった。
- 安蒜家文書の三ヶ尾村村絵図に示された田畑は、江川堤が築かれ、2つの坎樋によって排水が制御できるように初めて開発がすることができた耕地であろうと『江戸時代の野田をいく』野田市郷土博物館（平成10年）に記されている。



江川堤の位置と運河掘削路（陸軍迅速測図：明治16年）に加筆



江川堤と坎樋の位置に加筆

慶応2年（1866）の上三ヶ尾村下三ヶ尾村絵図（安蒜五郎家文書）

魅力4 江川堤跡に残る農業遺跡「坎樋」(いりひ)

- 江戸時代、三ヶ尾沼・悪水落掘と利根川間に延長約436m（岡田家古文書：慶応3年）の「江川堤」が築かれた。
- 瀬戸の岡田家文書によれば、当該江川堤坎樋の歴史は江戸時代中期の寛延3年（1750）まで遡り、当時は木造であったことなどを確認。
- 「坎樋」とは、用水（使うための水）の取り入れ、亦は排水（用悪水）のために、堤防の下に設けられた水門、樋（とい）、管のこと。江戸時代、坎樋の施設は木造であるため腐朽しやすく、維持補修と定期的な伏替が行われていた。
- 江川地区の利根川寄りの瀬戸の江川堤跡と思われる場所に、「明治四拾壹戊（1908、つちのえ）五月築樋」と刻まれた煉瓦造りの農業遺跡「坎樋」（樋管）が川表面、川裏面とも現存。



陸軍迅速測図（明治16年）縮尺2万分之1に描かれている江川堤に加筆



現在も見る事ができる「坎樋」の名残
(左：川表面/2005年3月16日撮影、右：川裏面/2021年1月10日撮影)

魅力5 三ヶ尾沼

- 陸軍参謀本部が明治14年4月に作成の民情調査報告書『偵察録』には、三ヶ尾沼は凡そ100町歩で、木ノ崎、大殿井、瀬戸、三ツ堀、大青田、深井、三ヶ尾等の滴水合溜して一つの沼となると記され、「千葉県統計書」に明治13年から明治37年に至る三ヶ尾沼面積の変遷が記録されている。



明治14年 陸軍参謀本部迅速測図に加筆（上図の三ヶ尾沼面積：約74ha）

- 瀬戸との間にあった三ヶ尾沼を中心とする位置関係により、上、下、西の名がついているものと推測される。三ヶ尾沼（近代に入り、排水して田となる）は、三方に深く入り込んだ溺れ谷によって形成されていたためこの名がついたと思われる。（「野田市民俗調査報告書2 三ヶ尾・瀬戸・三ツ堀・木野崎の民族」野田市、平成9年より）
- 陸軍参謀本部が明治14年4月に作成の民情調査報告書『偵察録』には、三ヶ尾沼は凡そ100町歩で、木ノ崎、大殿井、瀬戸、三ツ堀、大青田、深井、三ヶ尾等の滴水合溜して一つの沼となると記され、「千葉県統計書」に明治13年から明治37年に至る三ヶ尾沼面積の変遷が記録されている。

明治初期の野田市域の主な池沼（新保氏が迅速測図から図形測定器を用いて求めた面積）

池沼名	面積	現在の所在地
三ヶ尾沼	約74ha	三ヶ尾・三ツ堀ほか
関宿落堀池沼群	—	
五駄沼	約33ha	中里・東金野井
阿部沼	約20ha	中里
座生沼	約105ha	座生・岩名
船形池沼群	約38ha	船形
目吹・木野崎池沼群	—	目吹・木野崎
合計	約270～300ha	

魅力 6

福田村江川耕地組合設立許可申請書

- **明治 44 年（1911）2 月**に作成し申請した処の『耕地整理組合設立認可申請書 東葛飾郡福田村江川整理組合』一式が現存、解読により江川耕地整理組合の当時の様相に肉薄できる。
- 江川耕地内の大字三ツ堀には、コウノトリ生息の伝承ともいわれる字鴻ノ巣、字下鴻ノ巣に加え、字鶴ヶ久保（新発見）の小字の存在を確認。

<明治から大正にかけての主な推移>

明治 5 年（1872）

地租改正により、地主の支払う地租が金納化して固定化。作業の効率化のため、区画整理事業が盛んになるが、全くの在野的、農民的事業であった。

明治 21 年（1888）1 月

内務省開催の地方長官会議で、「区画改良は、我が国において農事改良の根本政策として、この改良を急務とする」と説かれ、区画整理事業に政府が関心を持ち始めた。

明治 21 年（1888）12 月

大蔵省令により、区画整理（田区改正）に対して 5 ヶ年の地価据置となる。

明治 22 年（1889）

福田村新設

明治 33 年（1900）

東葛飾郡川間村・旭村・福田村・船形悪水路水利組合設立（6 月）

東葛飾郡関宿町・二川村普通水利組合、東葛飾郡関宿町・二川村・木間ヶ瀬村普通水利組合、東葛飾郡関宿町・二川村・木間ヶ瀬村・川間村普通水利組合の 3 組合が設立（9 月）

明治 38 年（1905）耕地整理法の改正

- ◆耕地整理事業は、区画整理事業より、灌漑排水事業が主流となる。
- ◆明治 39 年に「耕地整理および土地改良奨励規則」が制度化され、都道府県で行う耕地整理の調査・設計・工事監督に対して初めて補助が行われた。
- ◆明治 42 年の耕地整理法改正により、事業が土地所有者による単純な共同施工から、耕地整理組合という法人によって施工されるようになる。

明治 41 年（1908）

耕地排水事業起業

明治 43 年（1910）

東葛飾郡木間ヶ瀬村耕地整理組合設立（5 月）

座生沼耕地整理組合を目的とする七福村・野田町耕地整理組合設立（6 月）

東葛飾郡関宿町と二川村の連合耕地整理組合設立（11 月）

明治 44 年（1911）

福田村江川耕地整理組合設立（2 月）

大正 3 年 (1914)

耕地整理法の改正により、湖沼海面の埋め立て、干拓も耕地整理法の適用を受けることになる。これで、土地改良、開拓の全般に渡る制度が概ね確立される。

大正 8 年 (1919)

開墾助成法の制定で、開墾資金に利子補給が行われる。排水条件の改良が重視され、暗渠排水が盛んになる。

大正 9 年 (1920)

排水基運転開始

大正 10 年 (1921)

福田村江川耕地整理組合事業報告書の一部抜粋

★組合人数と地目別面積 (1 町=1ha 弱)

本年度末組合人数 ; 366 人、田面積 : 1787 町 828、畑 : 91 町 500、宅地 : 2 町 821、山林 : 4 町 714、池沼 : 77 町 428、原野 : 2 町 121, 計 : 1966 町 622

★工事進捗ノ程度

沼地内中央排水路堤塘築立 (延長両側計千二百間 (約 2160m) の工事、全部本年度において完了

★土地利用ノ状況

整理施行前は湿田だったが、整理後は灌排水の便を得た為、乾田と化し、米質良好で収穫増収、かつ耕作の労役が減少した

(上三ヶ尾・宇佐見節子家文書 C-9-1)

大正 12 年 (1923)

用排水改良事業補助事項が定められ、受益面積 500 町歩以上の用排水幹線、又は用排水設備の都道府県営改良事業に対して 50%以内の国庫補助が行われる。土地改良事業の事業費そのものに初めて国家の財政資金が本格的に、かつ大規模に投入され、土地改良事業史上、画期をなす出来事となった。



田舟浮かぶ江川 (排水路)、後方は東斜面林台地 (大正 8 年) 江川土地改良区所蔵

魅力7 江川耕整記念碑

- 江川耕地の歴史を簡潔に語りかける千葉県担当課長撰文の昭和8年(1933)5月建立の「江川耕整記念碑」が、大字瀬戸の県道7号線脇に立っている。



江川耕整記念碑

利根運河から近い県道7号沿いに立つ。

江川耕整記念碑 積文(新保氏)

碑の内容は、およそ以下の通り。

- 東葛飾郡福田村江川耕地整理組合は、上下西三ヶ尾、二ツ塚、瀬戸、三ツ堀、大青田及び田中村船戸一帯を含む面積約219ha余の地域。
- 本地域は利根川と利根運河両側の間に介在する低湿地であり、一度の長雨で水が氾濫し、田畑は沼沢と共に一面の泥海と化し、耕作の苦労が一夜にして水の泡に帰す状態だった。排水路開墾を企画することも何度もあったがうまくいかず、長年自然に委ねるほかなく、郷の者は「秋無し田」と呼んでいた。
- この状況を憂い、県の技術官を派遣し地形を調査、排水改良計画を定め、耕地整理法に則り実施すべき方策を示し、諸般の事務を整え、明治45年2月に耕地整理組合設立認可を得、翌3月起工、事業費5万円を投じて排水機を設置すると共に排水路を開墾することによって雨水の排除に努め、池沼を開墾し積極的に耕地の改良を断行した。
- 昭和7年、時局^{きょうきゅう}匡救事業(当時の景気対策のための公共事業)の施設に当たり、工費千二百余円を投じて水田1.4ha弱を開墾、橋梁を改築・・・農業生産倍増し農村振興の基礎がようやくでき、百年の憂患がなくなり非常に喜ばしいことだ

Ⅲ. 自然環境調査からみる課題について

課題1 良好な自然環境の維持管理

良好な民有地の自然を守るための市民の森や自然を活かして保全・整備された公園等では、管理の方法・内容も、自然環境の質を守り・維持していく上で重要である。場所によって目指す自然の姿がどうあるべきかの答えは必ずしも一つではないが、維持管理方法によっては、自然の質が劣化してしまう恐れがある。

また、樹木が多いことで人目につきにくいなどの理由から、不法投棄やゴミのポイ捨てなどが目立つ場所が多いのも現状となっている。ゴミの散乱は、美しい自然の景観を損ねるだけでなく、野生の生きものにも、水質汚濁や土壌汚染による生息環境の悪化、誤食や有害物質の生物濃縮による繁殖阻害など様々な形で悪影響を与えることが懸念される。

特に人工的に作り出されたプラスチックごみは、自然界で完全に分解されることがないため、地球規模で緊急に対策をとるべき大きな問題となっている。

今回の調査においても、複数の調査地点において、ゴミ投棄の問題を含め、環境管理のあり方に関する課題が確認された。自然環境が残されている場所は、公有地ばかりでなく私有地が多いことから、行政が管理のあり方を見直すべき場所と、行政だけに頼りすぎない維持管理方策が必要な場所など、身近な自然を守るための維持管理の考え方・方策を場所の特性にあわせて検討・実践していく必要がある。



伐採等で明るい森にする場合も
管理の程度の判断は容易ではない



人目につかない場所に投棄されたゴミ

課題2 乱開発の防止・拠点となる自然の保全

豊かな自然が残されている場所が、次々と失われてしまうことへの危機感が多く寄せられている。樹林地や川などの他、多くの生きものを育む湿地環境を提供している水田も含め、多様な生きものの生息を支えるためには、まとまった自然の保全・自然同士のつながりが確保される必要がある。

野田市域の殆どが民有地でもあり、自然豊かな場所すべてにおいて人が暮らしていくための開発や用途変更を止めることはできないものの、生物多様性の確保は、人の暮らしの豊かさや経済の基盤を支えるものであり、持続可能な地域づくりに欠かせないことから、両立・

共存する方向を見出していくことが必要と考えられる。

今回の調査や既存の情報をもとに、重要性や緊急性などの観点から自然環境の拠点を見える化するとともに、ミティゲーション（回避・最小化・軽減・代償）など、複数の選択肢を持ちながら、守るべき自然を次世代に守りつなぐための方策を長期的な視点で考える必要がある。

※ 太陽光発電設備の設置に係る取組について

令和3年3月議会において、「野田市太陽光発電設備の適正な設置等に関する条例」について太陽光発電設備の設置を行う事業者に対し、設置を行う前に地域住民等に対する説明会の開催及び説明会に係る報告書提出を義務付け、説明会開催や戸別訪問等による地域住民等の理解を得るよう努めるよう、一部改正を行った。

【条例の概要】

・目的

災害の防止、良好な生活環境の維持並びに豊かな自然環境及び魅力ある景観の保全

・適用範囲

発電出力が30キロワット以上の太陽光発電設備に係る設置事業・発電事業

課題3 希少種の保全と外来種の侵入抑制

メダカ（ミナミメダカ）やトウキョウダルマガエルなど、かつて我々の身近で普通にたくさん見られていた生き物が、現在では全国的に絶滅が心配される種となっており、今回の調査でも、確認されてはいるものの、個体数が少なかったり、見られる場所が減っている種も確認されている。

また、日本や野田市域にこれまで生育・生息していなかった生きもの、外来種の侵入・定着が拡大し、これまで生育・生息している生きものたちの生育・生息をおびやかすことも大きな課題となっており、実際に今回の自然環境調査でも多くの外来種が確認されている。

特にアメリカザリガニやウシガエル、アカミミガメ、アライグマなどの動物や、アレチウリなどの植物は、市域全域で確認されており、在来の生き物を捕食したり生息環境で競合するなど在来種の生存を脅かしたり、人の生命・身体、農林水産業への被害などが懸念されている。

同じ生きものでも、野生の生き物とペットや園芸種としての生き物、地域に元々住んでいた生き物と外国など別の場所からやってきた生きものなど、地域の生態系における位置づけを多様な立場の市民と共有し、望ましい環境づくりに向けた必要方策を考えていく必要がある。



水田に残されていたアライグマの足跡



大繁殖しているアカミミガメ（外来種）

課題4 ルール・マナーを守った自然の利活用

自然環境は、人が景観やレクリエーションを楽しむ場や多くの野生の生きものの生息・生育の場など、多くの機能を持っている。継続的にそれらの恩恵を継続的に受けていくため、利活用にあたっては、一定のルール・マナーを守る必要がある。

生きものの生息等を優先すべき自然環境と、人間が利用していく自然環境とでは、ルールやマナーも異なることから、自然環境の目的や位置づけを明確にするとともに、原則として守るべきことと、状況に応じて検討すべきことなども考えながら、ルールやマナーを共有し、身近な自然を市民自ら活かし、守るための仕組みづくりが必要と考えられる。

課題5 自然環境調査データの蓄積と活用

今回及び前回の生物多様性地域戦略策定に際して実施した自然環境調査結果は、今回の生物多様性地域戦略策定の基礎情報として活用することを目的に実施されているが、これらの情報は野田市域の自然環境を守りつないでいくうえで重要な情報である。

戦略の策定への活用のみにとどまらず、学校教育や地域づくりなど、必要に応じて有効活用できるよう情報の蓄積を行うとともに、活用していくための仕組みやルールを整えていくことが有効と考えられる。

課題6 市民の自然に対する意識の向上・醸成

野田市の自然環境は、原生自然ではなく、人との関わりの中で育まれてきた自然であり、次の世代に守りつなげていくためには、野田市に暮らす市民が身近な自然に関心を持ち、魅力や大切さを理解し、自ら守り育てる一員となっていくことが必要である。

野田市においては、生物多様性のシンボルとしてコウノトリを掲げ、その生息環境づくりと野生復帰を進めることを通じて、野田市の生物多様性の保全を進めていることから、コウノトリをシンボルとした自然と共存する地域づくりに関する周知PRを引き続き推進する中で、市民の自然に対する意識の向上・醸成を図っていく必要がある。

確認種リストⅠ：野田市自然環境調査による確認種

-調査期間：2020年9月～2021年10月

■植物 (1/7)

No.	種名	科	No.	種名	科
1	イチョウウキゴケ	ウキゴケ	71	タブノキ	クスノキ
2	ウキゴケ	ウキゴケ	72	シロダモ	クスノキ
3	ヒロクチゴケ	ヒョウタンゴケ	73	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ
4	ミズニラ	ミズニラ	74	ドクダミ	ドクダミ
5	マツバラン	マツバラン	75	ハンゲショウ	ドクダミ
6	オオハナワラビ	ハナヤスリ	76	ショウブ	ショウブ
7	チツノハナワラビ	ハナヤスリ	77	カントウマムシグサ(マムシグサ)	サトイモ
8	トネハナヤスリ	ハナヤスリ	78	ウラシマソウ	サトイモ
9	スギナ	トクサ	79	アオウキクサ	サトイモ
10	イヌスギナ	トクサ	80	コウキクサ	サトイモ
11	イヌドクサ	トクサ	81	カラスビシャク	サトイモ
12	ゼンマイ	ゼンマイ	82	ウキクサ	サトイモ
13	カニクサ	カニクサ	83	ヘラオモダカ	オモダカ
14	アメリカオオアカウキクサ	サンショウモ	84	オモダカ	オモダカ
15	ワラビ	コバノイシカグマ	85	ナガイモ	ヤマノイモ
16	ヒメミズワラビ	イノモトソウ	86	ニガカシュウ	ヤマノイモ
17	オオバノイノモトソウ	イノモトソウ	87	ヤマノイモ	ヤマノイモ
18	イノモトソウ	イノモトソウ	88	オニドコロ	ヤマノイモ
19	ホソバシケンダ	イワデンダ	89	ホウチャクソウ	イヌサフラン
20	オオホソバシケンダ	イワデンダ	90	サルトリイバラ	シオデ
21	シケンダ	イワデンダ	91	シオデ	シオデ
22	フモトシケンダ	イワデンダ	92	ヤマユリ	ユリ
23	イヌワラビ	イワデンダ	93	シンテツポウユリ	ユリ
24	ヘビノネゴザ	イワデンダ	94	ヤマジノホトギス	ユリ
25	ミゾシダ	ヒメシダ	95	アマナ	ユリ
26	ホシダ	ヒメシダ	96	エビネ	ラン
27	ゲジゲジシダ	ヒメシダ	97	ギンラン	ラン
28	ハシゴシダ	ヒメシダ	98	キンラン	ラン
29	ハリガネワラビ	ヒメシダ	99	サイハイラン	ラン
30	ヒメシダ	ヒメシダ	100	シュンラン	ラン
31	ミドリヒメワラビ	ヒメシダ	101	タシロラン	ラン
32	クサソテツ	コウヤワラビ	102	コ克蘭	ラン
33	コウヤワラビ	コウヤワラビ	103	ノヤマトンボ(オオバノトンボソウ)	ラン
34	ホソバナライシダ	オシダ	104	ネジバナ	ラン
35	ハカタシダ	オシダ	105	シャガ	アヤメ
36	リョウメンシダ	オシダ	106	キシウブ	アヤメ
37	オニヤブソテツ	オシダ	107	ニワゼキショウ	アヤメ
38	ヤブソテツ	オシダ	108	ヒメヒオウギズイセン	アヤメ
39	ヤマヤブソテツ	オシダ	109	ヤブカンゾウ	ススキノキ
40	ナガバヤブソテツ	オシダ	110	ノビル	ヒガンバナ
41	テリハヤブソテツ	オシダ	111	アサツキ	ヒガンバナ
42	ベニシダ	オシダ	112	ニラ	ヒガンバナ
43	トウゴクシダ	オシダ	113	ハナニラ	ヒガンバナ
44	オオベニシダ	オシダ	114	スノーフレイク	ヒガンバナ
45	アイノコクマワラビ	オシダ	115	ヒガンバナ	ヒガンバナ
46	オクマワラビ	オシダ	116	キツネノカミソリ	ヒガンバナ
47	オオイタチシダ	オシダ	117	スイセン	ヒガンバナ
48	ヤマイタチシダ	オシダ	118	アスバラガス(オランダキジカクシ)	キジカクシ
49	アスカイノデ	オシダ	119	ハラン	キジカクシ
50	アイアスカイノデ	オシダ	120	コバギボウシ	キジカクシ
51	イノデ	オシダ	121	ヒメヤブラン	キジカクシ
52	ノキシノブ	ウラボシ	122	ヤブラン	キジカクシ
53	イチョウ	イチョウ	123	ムスカリ	キジカクシ
54	モミ	マツ	124	ジャノヒゲ	キジカクシ
55	アカマツ	マツ	125	ナガバジャノヒゲ	キジカクシ
56	コウヤマキ	コウヤマキ	126	オオアマナ	キジカクシ
57	ヒノキ	ヒノキ	127	ナルコユリ	キジカクシ
58	サワラ	ヒノキ	128	ワニグチソウ	キジカクシ
59	スギ	ヒノキ	129	アマドコロ	キジカクシ
60	イヌガヤ	イチイ	130	キチジョウソウ	キジカクシ
61	カヤ	イチイ	131	オモト	キジカクシ
62	コウホネ	スイレン	132	ツルボ	キジカクシ
63	スイレン	スイレン	133	ヒメツリガネズイセン	キジカクシ
64	サネカズラ	マツブサ	134	シュロ	ヤシ
65	フタリスズカ	センリョウ	135	ヒメガマ	ガマ
66	ホオノキ	モクレン	136	ガマ	ガマ
67	コブシ	モクレン	137	コガマ	ガマ
68	クスノキ	クスノキ	138	イ(イグサ)	イグサ
69	ニッケイ	クスノキ	139	コウガイゼキショウ	イグサ
70	ヤマコウバシ	クスノキ	140	ココメイ	イグサ

■植物 (2/7)

No.	種名	科	No.	種名	科
141	クサイ	イグサ	204	ハルガヤ	イネ
142	スズメノヤリ	イグサ	205	コブナグサ	イネ
143	エナシヒゴクサ	カヤツリグサ	206	アズマネザサ	イネ
144	アオスゲ	カヤツリグサ	207	メダケ	イネ
145	オオアオスゲ	カヤツリグサ	208	トダシバ	イネ
146	メアオスゲ	カヤツリグサ	209	カラスムギ	イネ
147	ジョウロウスゲ	カヤツリグサ	210	カズノコグサ	イネ
148	アゼナルコ	カヤツリグサ	211	ヒメコバンソウ	イネ
149	カサスゲ	カヤツリグサ	212	イヌムギ	イネ
150	マスクサ	カヤツリグサ	213	スズメノチャヒキ	イネ
151	ウマスゲ	カヤツリグサ	214	キツネガヤ	イネ
152	カワラスゲ	カヤツリグサ	215	ノガリヤス	イネ
153	ヒゴクサ	カヤツリグサ	216	ジュズダマ	イネ
154	ナキリスゲ	カヤツリグサ	217	ギョウギシバ	イネ
155	ヤガミスゲ	カヤツリグサ	218	メヒシバ	イネ
156	ゴウソ	カヤツリグサ	219	アキメヒシバ	イネ
157	シバスゲ	カヤツリグサ	220	イヌビエ	イネ
158	ミコシガヤ	カヤツリグサ	221	ケイヌビエ	イネ
159	コジュズスゲ	カヤツリグサ	222	ヒメイヌビエ	イネ
160	ヤブスゲ	カヤツリグサ	223	オヒシバ	イネ
161	アゼスゲ	カヤツリグサ	224	シナダレスズメガヤ	イネ
162	ヤワラスゲ	カヤツリグサ	225	カゼクサ	イネ
163	チャガヤツリ(広義)	カヤツリグサ	226	ニワホコリ	イネ
164	タイワンヒメクグ(アイダクグ)	カヤツリグサ	227	オオニワホコリ	イネ
165	ヒメクグ	カヤツリグサ	228	コスズメガヤ	イネ
166	タマガヤツリ	カヤツリグサ	229	オニウシノケグサ	イネ
167	ホソミキンガヤツリ	カヤツリグサ	230	トボシガラ	イネ
168	メリケンガヤツリ	カヤツリグサ	231	ヒロハノウシノケグサ (ヒロハウシノケグサ)	イネ
169	カンエンガヤツリ	カヤツリグサ	232	ドジョウツナギ	イネ
170	ヒナガヤツリ	カヤツリグサ	233	ウシノシッペイ	イネ
171	アゼガヤツリ	カヤツリグサ	234	ケナシチガヤ	イネ
172	ヌマガヤツリ	カヤツリグサ	235	チガヤ(フシゲチガヤ)	イネ
173	コゴメガヤツリ	カヤツリグサ	236	チゴザサ	イネ
174	カヤツリグサ	カヤツリグサ	237	サヤヌカグサ	イネ
175	アオガヤツリ	カヤツリグサ	238	アゼガヤ	イネ
176	ウシクグ	カヤツリグサ	239	ネズミムギ	イネ
177	シロガヤツリ	カヤツリグサ	240	ネズミホソムギ	イネ
178	ハマスゲ	カヤツリグサ	241	ササガヤ	イネ
179	カワラスガナ	カヤツリグサ	242	ヒメアシボソ	イネ
180	ミズガヤツリ	カヤツリグサ	243	アシボソ	イネ
181	マツバイ	カヤツリグサ	244	オギ	イネ
182	ヒメヒラテンツキ	カヤツリグサ	245	ススキ	イネ
183	テンツキ	カヤツリグサ	246	ケチヂミザサ	イネ
184	クロテンツキ	カヤツリグサ	247	コチヂミザサ(チヂミザサ)	イネ
185	ヒデリコ	カヤツリグサ	248	ヌカキビ	イネ
186	ヤマイ	カヤツリグサ	249	オオクサキビ	イネ
187	メアゼテンツキ	カヤツリグサ	250	シマスズメノヒエ	イネ
188	ヒンジガヤツリ	カヤツリグサ	251	キシウスズメノヒエ	イネ
189	イヌホタルイ	カヤツリグサ	252	チクゴスズメノヒエ	イネ
190	タタラカンガレイ	カヤツリグサ	253	スズメノヒエ	イネ
191	フトイ	カヤツリグサ	254	チカラシバ	イネ
192	サンカクイ	カヤツリグサ	255	アオチカラシバ	イネ
193	コサンカクイ	カヤツリグサ	256	クサヨシ	イネ
194	コマツカサススキ	カヤツリグサ	257	ヨシ	イネ
195	マツカサススキ	カヤツリグサ	258	マダケ	イネ
196	ウキヤガラ	カヤツリグサ	259	モウソウチク	イネ
197	アオカモジグサ	イネ	260	ミゾイチゴツナギ	イネ
198	カモジグサ	イネ	261	スズメノカタビラ	イネ
199	ヌカボ	イネ	262	オオイチゴツナギ	イネ
200	スズメノテッポウ	イネ	263	オオスズメノカタビラ	イネ
201	ノハラスズメノテッポウ	イネ	264	ヒエガエリ	イネ
202	メリケンカルカヤ	イネ	265	ハイヌメリ	イネ
203	コウボウ	イネ	266	ヌメリグサ	イネ

■植物 (3/7)

No.	種名	科	No.	種名	科
267	ミヤコザサ	イネ	329	マユミ	ニシキギ
268	イヌアワ	イネ	330	カントウマユミ	ニシキギ
269	アキノエノコログサ	イネ	331	イモカタバミ	カタバミ
270	ムラサキアキノエノコロ	イネ	332	ハナカタバミ	カタバミ
271	コツブキンエノコロ	イネ	333	カタバミ	カタバミ
272	キンエノコロ	イネ	334	カタバミ(タチカタバミ)	カタバミ
273	エノコログサ	イネ	335	ウスアカカタバミ	カタバミ
274	オオエノコロ	イネ	336	ムラサキカタバミ	カタバミ
275	セイバンモロコシ	イネ	337	オッタチカタバミ	カタバミ
276	スーダンモロコシ	イネ	338	イヌタチカタバミ(仮)	カタバミ
277	ネズミノオ	イネ	339	アリアケスミレ	スミレ
278	カニツリグサ	イネ	340	タチツボスミレ	スミレ
279	コムギ	イネ	341	マルバースミレ	スミレ
280	マコモ	イネ	342	ニオイスマレ	スミレ
281	シバ	イネ	343	アメリカスミレサイシン	スミレ
282	アオスズメノカタビラ	イネ科	344	ビオラ	スミレ科
283	ツユクサ	ツユクサ	345	ツボスミレ	スミレ
284	シロバナツユクサ	ツユクサ	346	アギスミレ	スミレ
285	ケツユクサ	ツユクサ	347	ノジスミレ	スミレ
286	イボクサ	ツユクサ	348	セイヨウハコヤナギ(ポプラ)	ヤナギ
287	ヤブミョウガ	ツユクサ	349	アカメヤナギ(マルバヤナギ)	ヤナギ
288	ノハカタカラクサ(トキワツユクサ)	ツユクサ	350	カワヤナギ	ヤナギ
289	ムラサキツユクサ	ツユクサ	351	イヌコリヤナギ	ヤナギ
290	ホテイアオイ	ミズアオイ	352	コリヤナギ	ヤナギ
291	コナギ	ミズアオイ	353	コゴメヤナギ	ヤナギ
292	ミョウガ	ショウガ	354	タチヤナギ	ヤナギ
293	クサノオウ	ケシ	355	オトギリソウ	オトギリソウ
294	ジロポウエンゴサク	ケシ	356	コケオトギリ	オトギリソウ
295	ムラサキケマン	ケシ	357	ミゾハコベ	ミゾハコベ
296	タケニグサ	ケシ	358	エノキグサ	トウダイグサ
297	ケナシチャンパギク	ケシ	359	ショウジョウソウ	トウダイグサ
298	ナガミヒナゲシ	ケシ	360	トウダイグサ	トウダイグサ
299	ゴヨウアケビ	アケビ	361	コニシキソウ	トウダイグサ
300	アケビ	アケビ	362	オオニシキソウ	トウダイグサ
301	ミツバアケビ	アケビ	363	ニシキソウ	トウダイグサ
302	ムベ	アケビ	364	アレチニシキソウ	トウダイグサ
303	アオツヅラフジ	ツヅラフジ	365	アカメガシワ	トウダイグサ
304	ツヅラフジ	ツヅラフジ	366	ナンキンハゼ	トウダイグサ
305	ヒイラギナンテン	メギ	367	コミカンソウ	コミカンソウ
306	ナンテン	メギ	368	クサネム	マメ
307	ポタンヅル	キンポウゲ	369	ネムノキ	マメ
308	センニンソウ	キンポウゲ	370	イタチハギ	マメ
309	ケキツネノポタン	キンポウゲ	371	ヤブマメ	マメ
310	タガラシ	キンポウゲ	372	フジカンゾウ	マメ
311	アキカラマツ	キンポウゲ	373	アレチヌスビトハギ	マメ
312	ユズリハ	ユズリハ	374	ヌスビトハギ	マメ
313	コモチマンネングサ	ベンケイソウ	375	ツルマメ	マメ
314	ツルマンネングサ	ベンケイソウ	376	コマツナギ	マメ
315	タコノアシ	タコノアシ	377	ヤハズソウ	マメ
316	オオフサモ	アリノトウグサ	378	ヤマハギ	マメ
317	ヤブサンザシ	スグリ	379	メドハギ	マメ
318	チダケサシ	ユキノシタ	380	ネコハギ	マメ
319	ユキノシタ	ユキノシタ	381	コメツブウマゴヤシ	マメ
320	キレハノブドウ	ブドウ	382	クズ	マメ
321	ノブドウ	ブドウ	383	ハリエンジュ	マメ
322	ヤブガラシ	ブドウ	384	ムラサキツメクサ(アカツメクサ)	マメ
323	ツタ(ナツツタ)	ブドウ	385	シロバナアカツメクサ	マメ
324	エビヅル	ブドウ	386	シロツメクサ	マメ
325	ツルウメモドキ	ニシキギ	387	ヤハズエンドウ(カラスノエンドウ)	マメ
326	ニシキギ	ニシキギ	388	クサフジ	マメ
327	コマユミ	ニシキギ	389	ナヨクサフジ	マメ
328	ツリバナ	ニシキギ	390	スズメノエンドウ	マメ

■植物 (4/7)

No.	種名	科	No.	種名	科
391	カスマグサ	マメ	454	シラカン	ブナ
392	ナンテンハギ	マメ	455	コナラ	ブナ
393	ヤブツルアズキ	マメ	456	オニグルミ	クルミ
394	フジ	マメ	457	ハンノキ	カバノキ
395	キンミズヒキ	バラ	458	イヌシデ	カバノキ
396	ヒメキンミズヒキ	バラ	459	アメリカフウロ	フウロソウ
397	クサボケ	バラ	460	ゲンノショウコ	フウロソウ
398	ヘビイチゴ	バラ	461	ミスタマソウ	アカバナ
399	ヤブヘビイチゴ	バラ	462	アカバナ	アカバナ
400	ビワ	バラ	463	ヒレタゴボウ	アカバナ
401	ヤマブキ	バラ	464	チョウジタデ	アカバナ
402	カマツカ	バラ	465	ウスゲチョウジタデ	アカバナ
403	タチゲヒメヘビイチゴ	バラ	466	コマツヨイグサ	アカバナ
404	ミツバツチグリ	バラ	467	オオバナコマツヨイグサ	アカバナ
405	オヘビイチゴ	バラ	468	メマツヨイグサ	アカバナ
406	オキヅムシロ	バラ	469	ユウゲショウ	アカバナ
407	イヌザクラ	バラ	470	ヒルザキツキミソウ	アカバナ
408	ウワミズザクラ	バラ	471	ホソバヒメミソハギ	ミソハギ
409	ヤマザクラ	バラ	472	サルスベリ	ミソハギ
410	オオシマザクラ	バラ	473	キカシグサ	ミソハギ
411	ソメイヨシノ	バラ	474	ミズマツバ	ミソハギ
412	タチバナモドキ	バラ	475	ゴンズイ	ミツバウツギ
413	カザンデマリ (ヒマラヤトキワサンザシ)	バラ	476	キブシ	キブシ
414	ノイバラ	バラ	477	ヌルデ	ウルシ
415	テリハノイバラ	バラ	478	トウカエデ	ムクロジ
416	フユイチゴ	バラ	479	イロハモミジ	ムクロジ
417	クマイチゴ	バラ	480	サンショウ	ミカン
418	クサイチゴ	バラ	481	アサクラザンショウ	ミカン
419	モミジイチゴ	バラ	482	イヌザンショウ	ミカン
420	ナワシロイチゴ	バラ	483	センダン	センダン
421	ワレモコウ	バラ	484	シンジュ	ニガキ
422	ユキヤナギ	バラ	485	ニガキ	ニガキ
423	ワレモコウモドキ	バラ科	486	オニシバリ	ジンチョウゲ
424	クマヤナギ	クロウメモドキ	487	イチビ	アオイ
425	マルバナツグミ(ナツグミ)	グミ	488	ウスベニアオイ	アオイ
426	アキニレ	ニレ	489	ゼニアオイ	アオイ
427	ケヤキ	ニレ	490	アメリカキンゴジカ	アオイ
428	ムクノキ	アサ	491	カラシナ(セイヨウカラシナ)	アブラナ
429	エノキ	アサ	492	アブラナ(広義)	アブラナ
430	カナムグラ	アサ	493	ナズナ	アブラナ
431	カラハナソウ	アサ	494	ミスタネツケバナ	アブラナ
432	ヒメコウゾ	クワ	495	タネツケバナ	アブラナ
433	コウゾ	クワ	496	ミチタネツケバナ	アブラナ
434	カジノキ	クワ	497	カラクサナズナ	アブラナ
435	クワクサ	クワ	498	マメゲンバイナズナ	アブラナ
436	マグワ(クワ)	クワ	499	オランダガラシ	アブラナ
437	ヤマグワ	クワ	500	ハナダイコン	アブラナ
438	ヤブマオ	イラクサ	501	ミミイヌガラシ	アブラナ
439	ツクシヤブマオ	イラクサ	502	イヌガラシ	アブラナ
440	クサマオ(カラムシ)	イラクサ	503	スカシタゴボウ	アブラナ
441	ナンバンカラムシ	イラクサ	504	イヌカキネガラシ	アブラナ
442	ヤマミズ	イラクサ	505	ゲンバイナズナ	アブラナ
443	アオミズ	イラクサ	506	アキノタネツケバナ	アブラナ
444	アマチャヅル	ウリ	507	カナビキソウ	ビャクダン
445	スズメウリ	ウリ	508	ミズヒキ	タデ
446	アレチウリ	ウリ	509	シンミズヒキ	タデ
447	カラスウリ	ウリ	510	シャクチリソバ	タデ
448	キカラスウリ	ウリ	511	イタドリ	タデ
449	クリ	ブナ	512	ヒメタデ	タデ
450	スタジイ	ブナ	513	ホソバイヌタデ	タデ
451	アカガシ	ブナ	514	ヤナギタデ	タデ
452	クヌギ	ブナ	515	シロバナサクラタデ	タデ
453	カシワ	ブナ	516	オオイヌタデ	タデ

■植物 (5/7)

No.	種名	科	No.	種名	科
517	イヌタデ	タデ	579	コナスビ	サクラソウ
518	サデクサ	タデ	580	ヤブツバキ	ツバキ
519	ヤノネグサ	タデ	581	ツバキ	ツバキ
520	イシミカワ	タデ	582	チャノキ	ツバキ
521	ハナタデ	タデ	583	サウフタギ	ハイノキ
522	ボントクタデ	タデ	584	エゴノキ	エゴノキ
523	ママコノシリヌグイ	タデ	585	サルナシ	マタタビ
524	アキノウナギツカミ	タデ	586	オニマタタビ	マタタビ
525	シロバナアキノウナギツカミ	タデ	587	リョウブ	リョウブ
526	ヌカボタデ	タデ	588	オオムラサキ	ツツジ
527	ミゾソバ	タデ	589	アオキ	アオキ
528	オオミゾソバ	タデ	590	フイリアオキ	アオキ
529	シロバナミゾソバ	タデ	591	ハナイバナ	ムラサキ
530	ハルタデ	タデ	592	キュウリグサ	ムラサキ
531	ミチヤナギ	タデ	593	オオフタバムグラ	アカネ
532	スイバ	タデ	594	シラホシムグラ	アカネ
533	アレチギシギシ	タデ	595	ヤエムグラ	アカネ
534	ナガバギシギシ	タデ	596	ホソバノヨツバムグラ	アカネ
535	ギシギシ	タデ	597	フタバムグラ	アカネ
536	ノダイオウ	タデ	598	オオハシカグサ	アカネ
537	コギシギシ	タデ	599	ハシカグサ	アカネ
538	エゾノギシギシ(ヒロハギシギシ)	タデ	600	ヘクソカズラ	アカネ
539	ギシギシモドキ	タデ	601	アカネ	アカネ
540	ノハラダイオウ	タデ	602	フデリンドウ	リンドウ
541	ナガバコギシギシ	タデ	603	イケマ	キョウチクトウ
542	アイノコギシギシ	タデ	604	ガガイモ	キョウチクトウ
543	アレチナガバギシギシ	タデ	605	テイカカズラ	キョウチクトウ
544	ノミノツヅリ	ナデシコ	606	ツルニチニチソウ	キョウチクトウ
545	セイヨウミミナグサ	ナデシコ	607	ネズミモチ	モクセイ
546	オランダミミナグサ	ナデシコ	608	トウネズミモチ	モクセイ
547	ミミナグサ	ナデシコ	609	イボタノキ	モクセイ
548	イヌコモチナデシコ	ナデシコ	610	ミズハコベ	オオバコ
549	ツメクサ	ナデシコ	611	ツタバウンラン	オオバコ
550	ハマツメクサ	ナデシコ	612	アブノメ	オオバコ
551	ノミノフスマ	ナデシコ	613	キクモ	オオバコ
552	ウシハコベ	ナデシコ	614	オオバコ	オオバコ
553	コハコベ	ナデシコ	615	ヘラオオバコ	オオバコ
554	ミドリハコベ	ナデシコ	616	ツボミオオバコ	オオバコ
555	ヒカゲイノコズチ	ヒユ	617	オオカワヂシャ	オオバコ
556	ヒナタイノコズチ	ヒユ	618	タチイヌノフグリ	オオバコ
557	ヤナギイノコズチ	ヒユ	619	コゴメイヌノフグリ	オオバコ
558	ツルノゲイトウ	ヒユ	620	フラサバソウ	オオバコ
559	ホソアオゲイトウ	ヒユ	621	ムシクサ	オオバコ
560	イヌヒユ	ヒユ	622	オオイヌノフグリ	オオバコ
561	シロザ	ヒユ	623	カワヂシャ	オオバコ
562	ゴウシュウアリタソウ	ヒユ	624	キランソウ	シソ
563	ヨウシュヤマゴボウ	ヤマゴボウ	625	ジュウニヒトエ	シソ
564	オシロイバナ	オシロイバナ	626	ムラサキシキブ	シソ
565	ザクロソウ	ザクロソウ	627	クサギ	シソ
566	クルマバザクロソウ	ザクロソウ	628	トウバナ	シソ
567	スベリヒユ	スベリヒユ	629	カキドオシ	シソ
568	ヒメマツバボタン	スベリヒユ	630	ヤマハッカ	シソ
569	ミズキ	ミズキ	631	ホトケノザ	シソ
570	ウツギ	アジサイ	632	オドリコソウ	シソ
571	アジサイ	アジサイ	633	ヒメオドリコソウ	シソ
572	ヒサカキ	サカキ	634	シロネ	シソ
573	モッコク	サカキ	635	ヒメサルダヒコ	シソ
574	マンリョウ	サクラソウ	636	ハッカ	シソ
575	カラタチバナ	サクラソウ	637	マルバハッカ	シソ
576	ヤブコウジ	サクラソウ	638	セイヨウハッカ(コシヨウハッカ)	シソ
577	ノジオカトラノオ	サクラソウ	639	ヒメジソ	シソ
578	ヌマトラノオ	サクラソウ	640	イヌコウジュ	シソ

■植物 (6/7)

No.	種名	科	No.	種名	科
641	エゴマ	シソ	703	センダングサ	キク
642	アカジソ	シソ	704	アメリカセンダングサ	キク
643	アキノタムラソウ	シソ	705	コセンダングサ	キク
644	ミゾコウジュ	シソ	706	シロバナセンダングサ (コシロノセンダングサ)	キク
645	シソ	シソ	707	タウコギ	キク
646	アオジソ	シソ	708	ヒレアザミ	キク
647	カタメンジソ	シソ	709	ヤブタバコ	キク
648	イヌゴマ	シソ	710	コヤブタバコ	キク
649	ニガクサ	シソ	711	ガンクビソウ	キク
650	アイムラサキシキブ	シソ	712	トキンソウ	キク
651	キリ	キリ	713	ノアザミ	キク
652	サギゴケ(ムラサキサギゴケ)	ハエドクソウ	714	ノハラアザミ	キク
653	トキワハゼ	ハエドクソウ	715	アメリカオニアザミ	キク
654	ハエドクソウ	ハエドクソウ	716	オオアレチノギク	キク
655	ナガバハエドクソウ	ハエドクソウ	717	キバナコスモス	キク
656	ヤセウツボ	ハマウツボ	718	ベニバナポロギク	キク
657	ヤナギハナガサ	クマツヅラ	719	アメリカタカサブロウ	キク
658	ヒロハスズメノトウガラシ	アゼトウガラシ	720	モトタカサブロウ(タカサブロウ)	キク
659	ウリクサ	アゼトウガラシ	721	ダンドポロギク	キク
660	タケトアゼナ	アゼトウガラシ	722	ヒメジョオン	キク
661	アメリカアゼナ	アゼトウガラシ	723	ヒメムカシヨモギ	キク
662	アゼトウガラシ	アゼトウガラシ	724	ハルジオン	キク
663	アゼナ	アゼトウガラシ	725	ヤナギバヒメジョオン	キク
664	キツネノマゴ	キツネノマゴ	726	ヒヨドリバナ	キク
665	コヒルガオ	ヒルガオ	727	ツワブキ	キク
666	アイノコヒルガオ	ヒルガオ	728	ハハコグサ	キク
667	ヒルガオ	ヒルガオ	729	チチチコグサ	キク
668	マルバルコウ	ヒルガオ	730	セイタカハハコグサ	キク
669	マルバアメリカアサガオ	ヒルガオ	731	チチコグサモドキ	キク
670	マメアサガオ	ヒルガオ	732	ウラジロチチコグサ(ミナミ・キタ含む)	キク
671	ベニバナマメアサガオ	ヒルガオ	733	イヌククイモ	キク
672	アサガオ	ヒルガオ	734	ククイモ	キク
673	マルバアサガオ	ヒルガオ	735	ククイモモドキ	キク
674	ルコウソウ	ヒルガオ	736	キツネアザミ	キク
675	ホシアサガオ	ヒルガオ	737	ブタナ	キク
676	クコ	ナス	738	オグルマ	キク
677	ホオズキ	ナス	739	ホソバオグルマ	キク
678	センナリホオズキ	ナス	740	サクラオグルマ	キク
679	ワルナスビ	ナス	741	オオジシバリ	キク
680	ヒヨドリジョウゴ	ナス	742	ニガナ	キク
681	オオイヌホオズキ	ナス	743	イワニガナ(ジシバリ)	キク
682	イヌホオズキ	ナス	744	ユウガギク	キク
683	アメリカイヌホオズキ	ナス	745	カントウヨメナ	キク
684	ジャガイモ	ナス	746	アキノノゲシ	キク
685	カンザシイヌホオズキ	ナス	747	コオニタバコ	キク
686	ハダカホオズキ	ナス	748	ヤブタバコ	キク
687	セイヨウヒイラギ	モチノキ	749	オニヤブタバコ	キク
688	イヌツゲ	モチノキ	750	ノボロギク	キク
689	モチノキ	モチノキ	751	フキ	キク
690	アオハダ	モチノキ	752	コウゾリナ	キク
691	ウメモドキ	モチノキ	753	コメナモミ	キク
692	ハナイカダ	ハナイカダ	754	メナモミ	キク
693	ツリガネニンジン	キキョウ	755	セイタカアワダチソウ	キク
694	ミゾカクシ	キキョウ	756	オニノゲシ	キク
695	キキョウソウ	キキョウ	757	ノゲシ	キク
696	オオブタクサ	キク	758	ウスジロノゲシ	キク
697	ヨモギ	キク	759	外来性タンポポ種群	キク
698	ミヤマヨメナ	キク	760	カントウタンポポ	キク
699	シラヤマギク	キク	761	オオオナモミ	キク
700	ホウキギク	キク	762	オニタバコ	キク
701	ヒロハホウキギク	キク	763	アオオニタバコ	キク
702	コパノセンダングサ	キク	764	ヒャクニチソウ	キク

■植物 (7/7)

No.	種名	科	No.	種名	科
765	ハキダメギク	キク	779	アシタバ	セリ
766	コゴメギク	キク	780	セントウソウ	セリ
767	アカオニタビラコ	キク	781	ミツバ	セリ
768	ウド	ウコギ	782	セリ	セリ
769	タラノキ	ウコギ	783	ヤブニンジン	セリ
770	メダラ	ウコギ	784	ウマノミツバ	セリ
771	ヤマウコギ	ウコギ	785	ヤブジラミ	セリ
772	ヤツデ	ウコギ	786	オヤブジラミ	セリ
773	キツタ(フユツタ)	ウコギ	787	ソクズ	レンブクソウ
774	ノチドメ	ウコギ	788	ニワトコ	レンブクソウ
775	オオチドメ	ウコギ	789	ガマズミ	レンブクソウ
776	ウチワゼニクサ	ウコギ	790	ウグイスカグラ	スイカズラ
777	ハリギリ	ウコギ	791	スイカズラ	スイカズラ
778	ノダケ	セリ	792	ノヂシャ	オミナエシ
合計 140 科 792 種					

■ 鳥類

No.	種名	科名	目名	No.	種名	科名	目名
1	コジュケイ	キジ科	キジ目	51	フクロウ	フクロウ科	フクロウ目
2	キジ	キジ科	キジ目	52	カワセミ	カワセミ科	ブッポウソウ目
3	オシドリ	カモ科	カモ目	53	コゲラ	キツツキ科	キツツキ目
4	オカヨシガモ	カモ科	カモ目	54	アカゲラ	キツツキ科	キツツキ目
5	ヨシガモ	カモ科	カモ目	55	チョウゲンボウ	ハヤブサ科	ハヤブサ目
6	ヒドリガモ	カモ科	カモ目	56	ハヤブサ	ハヤブサ科	ハヤブサ目
7	マガモ	カモ科	カモ目	57	モズ	モズ科	スズメ目
8	カルガモ	カモ科	カモ目	58	カケス	カラス科	スズメ目
9	ハシビロガモ	カモ科	カモ目	59	オナガ	カラス科	スズメ目
10	コガモ	カモ科	カモ目	60	コクマルガラス	カラス科	スズメ目
11	ホシハジロ	カモ科	カモ目	61	ミヤマガラス	カラス科	スズメ目
12	ホオジロガモ	カモ科	カモ目	62	ハシボソガラス	カラス科	スズメ目
13	カイツブリ	カイツブリ科	カイツブリ目	63	ハシブトガラス	カラス科	スズメ目
14	カンムリカイツブリ	カイツブリ科	カイツブリ目	64	ヤマガラ	シジュウカラ科	スズメ目
15	ハジロカイツブリ	カイツブリ科	カイツブリ目	65	シジュウカラ	シジュウカラ科	スズメ目
16	カワラバト	ハト科	ハト目	66	ヒバリ	ヒバリ科	スズメ目
17	キジバト	ハト科	ハト目	67	ツバメ	ツバメ科	スズメ目
18	アオバト	ハト科	ハト目	68	イワツバメ	ツバメ科	スズメ目
19	コウノトリ	コウノトリ科	コウノトリ目	69	ヒヨドリ	ヒヨドリ科	スズメ目
20	カワウ	ウ科	カツオドリ目	70	ウグイス	ウグイス科	スズメ目
21	ゴイサギ	サギ科	ペリカン目	71	エナガ	エナガ科	スズメ目
22	アマサギ	サギ科	ペリカン目	72	メジロ	メジロ科	スズメ目
23	アオサギ	サギ科	ペリカン目	73	オオヨシキリ	ヨシキリ科	スズメ目
24	ダイサギ	サギ科	ペリカン目	74	セッカ	セッカ科	スズメ目
25	チュウサギ	サギ科	ペリカン目	75	ムクドリ	ムクドリ科	スズメ目
26	コサギ	サギ科	ペリカン目	76	コムクドリ	ムクドリ科	スズメ目
27	クイナ	クイナ科	ツル目	77	トラツグミ	ヒタキ科	スズメ目
28	ヒクイナ	クイナ科	ツル目	78	シロハラ	ヒタキ科	スズメ目
29	バン	クイナ科	ツル目	79	アカハラ	ヒタキ科	スズメ目
30	オオバン	クイナ科	ツル目	80	ツグミ	ヒタキ科	スズメ目
31	ホトギス	カッコウ科	カッコウ目	81	ルリビタキ	ヒタキ科	スズメ目
32	ツツドリ	カッコウ科	カッコウ目	82	ジョウビタキ	ヒタキ科	スズメ目
33	カッコウ	カッコウ科	カッコウ目	83	ノビタキ	ヒタキ科	スズメ目
34	ヒメアマツバメ	アマツバメ科	アマツバメ目	84	イソヒヨドリ	ヒタキ科	スズメ目
35	タゲリ	チドリ科	チドリ目	85	エゾビタキ	ヒタキ科	スズメ目
36	ムナグロ	チドリ科	チドリ目	86	キビタキ	ヒタキ科	スズメ目
37	イカルチドリ	チドリ科	チドリ目	87	スズメ	スズメ科	スズメ目
38	コチドリ	チドリ科	チドリ目	88	キセキレイ	セキレイ科	スズメ目
39	タシギ	シギ科	チドリ目	89	ハクセキレイ	セキレイ科	スズメ目
40	チュウシャクシギ	シギ科	チドリ目	90	セグロセキレイ	セキレイ科	スズメ目
41	クサシギ	シギ科	チドリ目	91	ビンズイ	セキレイ科	スズメ目
42	イソシギ	シギ科	チドリ目	92	タヒバリ	セキレイ科	スズメ目
43	セグロカモメ	カモメ科	チドリ目	93	カワラヒワ	アトリ科	スズメ目
44	コアジサシ	カモメ科	チドリ目	94	マヒワ	アトリ科	スズメ目
45	ミサゴ	ミサゴ科	タカ目	95	ベニマシコ	アトリ科	スズメ目
46	トビ	タカ科	タカ目	96	シメ	アトリ科	スズメ目
47	ハイタカ	タカ科	タカ目	97	ホオジロ	ホオジロ科	スズメ目
48	オオタカ	タカ科	タカ目	98	カシラダカ	ホオジロ科	スズメ目
49	サシバ	タカ科	タカ目	99	アオジ	ホオジロ科	スズメ目
50	ノスリ	タカ科	タカ目	100	オオジュリン	ホオジロ科	スズメ目

36科 100種

■爬虫類

No.	種名	科名	目名
1	クサガメ	イシガメ科	カメ目
2	アカミミガメ	ヌマガメ科	カメ目
3	ヒガシニホントカゲ	トカゲ科	トカゲ目
4	ニホンカナヘビ	カナヘビ科	トカゲ目
5	ジムグリ	ナミヘビ科	トカゲ目
6	アオダイショウ	ナミヘビ科	トカゲ目
7	シマヘビ	ナミヘビ科	トカゲ目
8	ヒバカリ	ナミヘビ科	トカゲ目
9	ヤマカガシ	ナミヘビ科	トカゲ目
合計 5科 9種			

■両生類

No.	種名	科名	目名
1	アズマヒキガエル	ヒキガエル科	カエル目
2	ニホンアマガエル	アマガエル科	カエル目
3	ニホンアカガエル	アカガエル科	カエル目
4	ウシガエル	アカガエル科	カエル目
5	トウキョウダルマガエル	アカガエル科	カエル目
6	ヌマガエル	ヌマガエル科	カエル目
7	シュレーゲルアオガエル	アオガエル科	カエル目
合計 5科 7種			

■魚類

No.	種名	科名	目名
1	コイ	コイ科	コイ目
2	ゲンゴロウブナ	コイ科	コイ目
3	ギンブナ	コイ科	コイ目
4	ヤリタナゴ	コイ科	コイ目
5	カネヒラ	コイ科	コイ目
6	タイリクバラタナゴ	コイ科	コイ目
7	ハクレン	コイ科	コイ目
8	オイカワ	コイ科	コイ目
9	モツゴ	コイ科	コイ目
10	タモロコ	コイ科	コイ目
11	ホンモロコ	コイ科	コイ目
12	ツチフキ	コイ科	コイ目
13	ニゴイ	コイ科	コイ目
14	デメモロコ	コイ科	コイ目
15	ドジョウ	ドジョウ科	コイ目
16	カラドジョウ	ドジョウ科	コイ目
17	ナマズ	ナマズ科	ナマズ目
18	カタヤシ	カタヤシ科	カタヤシ目
19	ミナミメダカ	メダカ科	ダツ目
20	ブルーギル	サンフィッシュ科	スズキ目
21	オオクチバス	サンフィッシュ科	スズキ目
22	ウキゴリ	ハゼ科	スズキ目
23	ジュズカケハゼ	ハゼ科	スズキ目
24	トウヨシノボリ	ハゼ科	スズキ目
25	カムルチー	タイワンドジョウ科	スズキ目
合計 8科 25種			

■昆虫類 (1/9)

No.	種名	科	目
1	ホソオビヒゲナガ	ヒゲナガ科	チョウ目
2	マダラマルハヒロズコガ	ヒロズコガ科	チョウ目
3	チャミノガ	ミノガ科	チョウ目
4	オオミノガ	ミノガ科	チョウ目
5	ネグロミノガ	ミノガ科	チョウ目
6	クロツヤミノガ	ミノガ科	チョウ目
7	コナガ	コナガ科	チョウ目
8	イラガ	イラガ科	チョウ目
9	アオイラガ	イラガ科	チョウ目
10	ヒロヘリアオイラガ	イラガ科	チョウ目
11	ルリイロスカシクロバ	マダラガ科	チョウ目
12	ホタルガ	マダラガ科	チョウ目
13	オオモモブトスカシバ	スカシバガ科	チョウ目
14	フクズミコスカシバ	スカシバガ科	チョウ目
15	カシコスカシバ	スカシバガ科	チョウ目
16	ピロードハマキ	ハマキガ科	チョウ目
17	マドガ	マドガ科	チョウ目
18	オオウスベニトガリメイガ	メイガ科	チョウ目
19	シロオビノメイガ	ツトガ科	チョウ目
20	シロモンノメイガ	ツトガ科	チョウ目
21	モモノゴマダラノメイガ	ツトガ科	チョウ目
22	マエアカスカシノメイガ	ツトガ科	チョウ目
23	スカシノメイガ	ツトガ科	チョウ目
24	モンキクロノメイガ	ツトガ科	チョウ目
25	ウスベニオオノメイガ	ツトガ科	チョウ目
26	カレハガ	カレハガ科	チョウ目
27	ホシカレハ	カレハガ科	チョウ目
28	タケカレハ	カレハガ科	チョウ目
29	マツカレハ	カレハガ科	チョウ目
30	クヌギカレハ	カレハガ科	チョウ目
31	クワコ	カイコガ科	チョウ目
32	ヤママユ	ヤママユガ科	チョウ目
33	オオミズアオ	ヤママユガ科	チョウ目
34	オナガミズアオ	ヤママユガ科	チョウ目
35	モモスズメ	スズメガ科	チョウ目
36	オオスカシバ	スズメガ科	チョウ目
37	クルマスズメ	スズメガ科	チョウ目
38	セスジスズメ	スズメガ科	チョウ目
39	オオバトガリバ	カギバガ科	チョウ目
40	ヤマトカギバ	カギバガ科	チョウ目
41	ギンツバメ	ツバメガ科	チョウ目
42	ユウマダラエダシャク	シャクガ科	チョウ目
43	ウメエダシャク	シャクガ科	チョウ目
44	トンボエダシャク	シャクガ科	チョウ目
45	クロスジフユエダシャク	シャクガ科	チョウ目
46	トビモンオオエダシャク	シャクガ科	チョウ目
47	ホシシャク	シャクガ科	チョウ目
48	ウスハラアカアオシャク	シャクガ科	チョウ目
49	シャチホコガ	シャチホコガ科	チョウ目
50	モンクロシャチホコ	シャチホコガ科	チョウ目
51	セダカシャチホコ	シャチホコガ科	チョウ目
52	マメドクガ	ドクガ科	チョウ目
53	スゲドクガ	ドクガ科	チョウ目
54	キアシドクガ	ドクガ科	チョウ目
55	マイマイガ	ドクガ科	チョウ目
56	チャドクガ	ドクガ科	チョウ目
57	モンシロドクガ	ドクガ科	チョウ目
58	ドクガ	ドクガ科	チョウ目
59	ムジホソバ	ヒトリガ科	チョウ目
60	ヨツボシホソバ	ヒトリガ科	チョウ目
61	カノコガ	ヒトリガ科	チョウ目
62	スジモンヒトリ	ヒトリガ科	チョウ目
63	クワゴマダラヒトリ	ヒトリガ科	チョウ目
64	シロヒトリ	ヒトリガ科	チョウ目
65	アメリカシロヒトリ	ヒトリガ科	チョウ目

■昆虫類 (2/9)

No.	種名	科	目
66	ミスジアツバ	ヤガ科	チョウ目
67	ヒメエグリバ	ヤガ科	チョウ目
68	ウンモンクチバ	ヤガ科	チョウ目
69	オオウンモンクチバ	ヤガ科	チョウ目
70	フクラスズメ	ヤガ科	チョウ目
71	ナカジロシタバ	ヤガ科	チョウ目
72	ウリキンウワバ	ヤガ科	チョウ目
73	ネモンシロフコヤガ	ヤガ科	チョウ目
74	カラスヨトウ	ヤガ科	チョウ目
75	アヤモクメキリガ	ヤガ科	チョウ目
76	ウスミモンキリガ	ヤガ科	チョウ目
77	アオフシラクモヨトウ	ヤガ科	チョウ目
78	ハスモンヨトウ	ヤガ科	チョウ目
79	ウラモンクチバ	ヤガ科	チョウ目
80	ダイミョウセセリ	セセリチョウ科	チョウ目
81	ギンイチモンジセセリ	セセリチョウ科	チョウ目
82	コチャバナセセリ	セセリチョウ科	チョウ目
83	キマダラセセリ	セセリチョウ科	チョウ目
84	オオチャバナセセリ	セセリチョウ科	チョウ目
85	チャバナセセリ	セセリチョウ科	チョウ目
86	ミヤマチャバナセセリ	セセリチョウ科	チョウ目
87	イチモンジセセリ	セセリチョウ科	チョウ目
88	ジャコウアゲハ	アゲハチョウ科	チョウ目
89	キアゲハ	アゲハチョウ科	チョウ目
90	アゲハ(ナミアゲハ)	アゲハチョウ科	チョウ目
91	クロアゲハ	アゲハチョウ科	チョウ目
92	ナガサキアゲハ	アゲハチョウ科	チョウ目
93	カラスアゲハ	アゲハチョウ科	チョウ目
94	アオスジアゲハ	アゲハチョウ科	チョウ目
95	キタキチョウ(キチョウ)	シロチョウ科	チョウ目
96	モンキチョウ	シロチョウ科	チョウ目
97	ツマキチョウ	シロチョウ科	チョウ目
98	モンシロチョウ	シロチョウ科	チョウ目
99	スジグロシロチョウ	シロチョウ科	チョウ目
100	ウラギンシジミ	シジミチョウ科	チョウ目
101	ムラサキシジミ	シジミチョウ科	チョウ目
102	ウラゴマダラシジミ	シジミチョウ科	チョウ目
103	ミズイロオナガシジミ	シジミチョウ科	チョウ目
104	アカシジミ	シジミチョウ科	チョウ目
105	ウラナミアカシジミ	シジミチョウ科	チョウ目
106	ミドリシジミ	シジミチョウ科	チョウ目
107	オオミドリシジミ	シジミチョウ科	チョウ目
108	ベニシジミ	シジミチョウ科	チョウ目
109	ウラナミシジミ	シジミチョウ科	チョウ目
110	ヤマトシジミ	シジミチョウ科	チョウ目
111	ツバメシジミ	シジミチョウ科	チョウ目
112	ルリシジミ	シジミチョウ科	チョウ目
113	テングチョウ	タテハチョウ科	チョウ目
114	アサギマダラ	タテハチョウ科	チョウ目
115	オオウラギンスジヒョウモン	タテハチョウ科	チョウ目
116	ミドリヒョウモン	タテハチョウ科	チョウ目
117	メスグロヒョウモン	タテハチョウ科	チョウ目
118	ツマグロヒョウモン	タテハチョウ科	チョウ目
119	イチモンジチョウ	タテハチョウ科	チョウ目
120	アサマイチョウ	タテハチョウ科	チョウ目
121	コムスジ	タテハチョウ科	チョウ目
122	キタテハ	タテハチョウ科	チョウ目
123	ルリタテハ	タテハチョウ科	チョウ目
124	アカタテハ	タテハチョウ科	チョウ目
125	ヒメアカタテハ	タテハチョウ科	チョウ目
126	コムラサキ	タテハチョウ科	チョウ目
127	アカボシゴマダラ	タテハチョウ科	チョウ目
128	ゴマダラチョウ	タテハチョウ科	チョウ目
129	ヒメウラナミジャノメ	タテハチョウ科	チョウ目
130	ジャノメチョウ	タテハチョウ科	チョウ目

■昆虫類 (3/9)

No.	種名	科	目
131	ヒカゲチョウ	タテハチョウ科	チョウ目
132	サトキマダラヒカゲ	タテハチョウ科	チョウ目
133	ヒメジャノメ	タテハチョウ科	チョウ目
134	コジャノメ	タテハチョウ科	チョウ目
135	クロノマチョウ	タテハチョウ科	チョウ目
136	ミカドガガンボ	ガガンボ科	ハエ目
137	キイロホソガガンボ	ガガンボ科	ハエ目
138	マダラガガンボ	ガガンボ科	ハエ目
139	キリウジガガンボ	ガガンボ科	ハエ目
140	キバラガガンボ	ガガンボ科	ハエ目
141	オビコシボソガガンボ	コシボソガガンボ科	ハエ目
142	ヤマトヤブカ	カ科	ハエ目
143	ヒトスジシマカ	カ科	ハエ目
144	アカイエカ	カ科	ハエ目
145	トラゴウヤブカ	カ科	ハエ目
146	アカムシユスリカ	ユスリカ科	ハエ目
147	ウリウロコタマバエ	タマバエ科	ハエ目
148	シロダモタマバエ	タマバエ科	ハエ目
149	コウカアブ	ミズアブ科	ハエ目
150	ミズアブ	ミズアブ科	ハエ目
151	アメリカミズアブ	ミズアブ科	ハエ目
152	ヤマトシギアブ	シギアブ科	ハエ目
153	キンイロアブ	アブ科	ハエ目
154	シロフアブ	アブ科	ハエ目
155	ウシアブ	アブ科	ハエ目
156	ピロウドツリアブ	ツリアブ科	ハエ目
157	クロハネツリアブ	ツリアブ科	ハエ目
158	スキバツリアブ	ツリアブ科	ハエ目
159	オオイシアブ	ムシヒキアブ科	ハエ目
160	チャイロオオイシアブ	ムシヒキアブ科	ハエ目
161	アオメアブ	ムシヒキアブ科	ハエ目
162	シオヤアブ	ムシヒキアブ科	ハエ目
163	マガリケムシヒキ	ムシヒキアブ科	ハエ目
164	シオヤムシヒキ	ムシヒキアブ科	ハエ目
165	ホソヒラタアブ	ハナアブ科	ハエ目
166	クロベッコウハナアブ	ハナアブ科	ハエ目
167	ハチモドキハナアブ	ハナアブ科	ハエ目
168	シマハナアブ	ハナアブ科	ハエ目
169	ナミハナアブ	ハナアブ科	ハエ目
170	アシフトハナアブ	ハナアブ科	ハエ目
171	カクモンアシフトハナアブ	ハナアブ科	ハエ目
172	シマアシフトハナアブ	ハナアブ科	ハエ目
173	オオハナアブ	ハナアブ科	ハエ目
174	アリノスアブ	ハナアブ科	ハエ目
175	ミスジミバエ	ミバエ科	ハエ目
176	ヤブクロシマバエ	シマバエ科	ハエ目
177	ヒメフンバエ	フンバエ科	ハエ目
178	タネバエ	ハナバエ科	ハエ目
179	オオクロバエ	クロバエ科	ハエ目
180	クロキンバエ	クロバエ科	ハエ目
181	ツマグロキンバエ	クロバエ科	ハエ目
182	ブランコヤドリバエ	ヤドリバエ科	ハエ目
183	ヨコジマオオハリバエ	ヤドリバエ科	ハエ目
184	ヤマトシリアゲ	シリアゲムシ科	シリアゲムシ目
185	ゴマフガムシ	ガムシ科	コウチュウ目
186	トゲバゴマフガムシ	ガムシ科	コウチュウ目
187	マメガムシ	ガムシ科	コウチュウ目
188	キイロヒラタガムシ	ガムシ科	コウチュウ目
189	チャイロヒラタガムシ	ガムシ科	コウチュウ目
190	キベリヒラタガムシ	ガムシ科	コウチュウ目
191	コガムシ	ガムシ科	コウチュウ目
192	ヒメガムシ	ガムシ科	コウチュウ目
193	オオヒラタシテムシ	シテムシ科	コウチュウ目

■昆虫類 (4/9)

No.	種名	科	目
194	アオバアリガタハネカクシ	ハネカクシ科	コウチュウ目
195	クロガネハネカクシ	ハネカクシ科	コウチュウ目
196	コクワガタ	クワガタムシ科	コウチュウ目
197	ノギリクワガタ	クワガタムシ科	コウチュウ目
198	コフキコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目
199	ビロウドコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目
200	アカビロウドコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目
201	マルガタビロウドコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目
202	コイチャコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目
203	アオドウガネ	コガネムシ科	コウチュウ目
204	サクラコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目
205	ヒラタアオコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目
206	ヒメコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目
207	セマダラコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目
208	コガネムシ	コガネムシ科	コウチュウ目
209	マメコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目
210	カブトムシ	コガネムシ科	コウチュウ目
211	アオハナムグリ	コガネムシ科	コウチュウ目
212	コアオハナムグリ	コガネムシ科	コウチュウ目
213	クロハナムグリ	コガネムシ科	コウチュウ目
214	シロテンハナムグリ	コガネムシ科	コウチュウ目
215	カナブン	コガネムシ科	コウチュウ目
216	クロカナブン	コガネムシ科	コウチュウ目
217	ヒメトラハナムグリ	コガネムシ科	コウチュウ目
218	シラホシナガタマムシ	タマムシ科	コウチュウ目
219	ヤノナミガタチビタマムシ	タマムシ科	コウチュウ目
220	エダヒゲナガハナノミ	ナガハナノミ科	コウチュウ目
221	ヒゲナガハナノミ	ナガハナノミ科	コウチュウ目
222	オオクシヒゲコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目
223	サビキコリ	コメツキムシ科	コウチュウ目
224	ウバタマコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目
225	シモフリコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目
226	アカヒゲヒラタコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目
227	オオヒラタコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目
228	クロコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目
229	ヒメクロコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目
230	クシコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目
231	アカアシハナコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目
232	オバボタル	ホタル科	コウチュウ目
233	ヘイケボタル	ホタル科	コウチュウ目
234	ジョウカイボン	ジョウカイボン科	コウチュウ目
235	キンイロジョウカイ	ジョウカイボン科	コウチュウ目
236	ヒロオビジョウカイモドキ	ジョウカイモドキ科	コウチュウ目
237	ヨツボシオオクスイ	オオクスイムシ科	コウチュウ目
238	アカハバビロオオキノコ	オオキノコムシ科	コウチュウ目
239	モンチビヒラタケシクスイ	ケシクスイ科	コウチュウ目
240	マルキマダラケシクスイ	ケシクスイ科	コウチュウ目
241	ルイスコオニケシクスイ	ケシクスイ科	コウチュウ目
242	ヨツボシケシクスイ	ケシクスイ科	コウチュウ目
243	ルリテントウダマシ	テントウムシダマシ科	コウチュウ目
244	ヨツボシテントウダマシ	テントウムシダマシ科	コウチュウ目
245	ヒメアカホシテントウ	テントウムシ科	コウチュウ目
246	カメノコテントウ	テントウムシ科	コウチュウ目
247	シロジュウゴホシテントウ	テントウムシ科	コウチュウ目
248	ナナホシテントウ	テントウムシ科	コウチュウ目
249	ナミテントウ	テントウムシ科	コウチュウ目
250	キイロテントウ	テントウムシ科	コウチュウ目
251	ヒメカメノコテントウ	テントウムシ科	コウチュウ目
252	ムネアカオオクロテントウ	テントウムシ科	コウチュウ目
253	トホシテントウ	テントウムシ科	コウチュウ目
254	ニジュウヤホシテントウ	テントウムシ科	コウチュウ目
255	ヨツボシテントウ	テントウムシ科	コウチュウ目
256	キマワリ(ニホンキマワリ、クロキマワリ)	ゴミムシダマシ科	コウチュウ目
257	ホンドクロオオクチキムシ(オオクチキムシ)	ゴミムシダマシ科	コウチュウ目

■昆虫類 (5/9)

No.	種名	科	目
258	ナミクチキムシ	ゴミムシダマシ科	コウチュウ目
259	ユミアシゴミムシダマシ	ゴミムシダマシ科	コウチュウ目
260	アオカミキリモドキ	カミキリモドキ科	コウチュウ目
261	モモフトカミキリモドキ	カミキリモドキ科	コウチュウ目
262	マメハンミョウ	ツチハンミョウ科	コウチュウ目
263	アカハネムシ	アカハネムシ科	コウチュウ目
264	ウスバカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
265	ノコギリカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
266	ヨツスジハナカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
267	ヒナルリハナカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
268	アカアシオオアオカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
269	ヒメスギカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
270	キマダラミヤマカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
271	フタオビミドリトラカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
272	キスジトラカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
273	ヒメクロトラカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
274	クビアカトラカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
275	コジマヒゲナガコハネカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
276	ベニカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
277	クワカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
278	シロスジカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
279	ナガゴマフカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
280	ゴマフカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
281	ゴマダラカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
282	ヒメヒゲナガカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
283	キボシカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
284	ニセリンゴカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
285	キクスイカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
286	トガリシロオビサバカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
287	ラーカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
288	オニグルミノキモンカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目
289	ホソクビナガハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
290	アカクビナガハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
291	キバラルリクビボソハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
292	トホシクビボソハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
293	ヤマイモハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
294	イネクビボソハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
295	イノコヅチカメノコハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
296	ヒメカメノコハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
297	イチモンジカメノコハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
298	ヨモギハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
299	ヤナギハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
300	コガタルリハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
301	フジハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
302	ヤツボシハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
303	ヤナギルリハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
304	ルリハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
305	サメハダツブノミハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
306	クロボシトビハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
307	ブタクサハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
308	イタドリハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
309	ウリハムシモドキ	ハムシ科	コウチュウ目
310	ウリハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
311	クロウリハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
312	アトボシハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
313	アカガネサルハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
314	マダラアラゲサルハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
315	ドウガネサルハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
316	イモサルハムシ	ハムシ科	コウチュウ目
317	ハイロチョッキリ	オトシブミ科	コウチュウ目
318	ササコクゾウムシ	オサゾウムシ科	コウチュウ目
319	イネミズゾウムシ	イボゾウムシ科	コウチュウ目
320	クヌギシギゾウムシ	ゾウムシ科	コウチュウ目
321	ヤサイゾウムシ	ゾウムシ科	コウチュウ目
322	トゲアシクチブゾウムシ	ゾウムシ科	コウチュウ目

■昆虫類 (6/9)

No.	種名	科	目
323	コフキゾウムシ	ゾウムシ科	コウチュウ目
324	オオアオゾウムシ	ゾウムシ科	コウチュウ目
325	スグリゾウムシ	ゾウムシ科	コウチュウ目
326	オナガカツオゾウムシ	ゾウムシ科	コウチュウ目
327	カツオゾウムシ	ゾウムシ科	コウチュウ目
328	ハスジカツオゾウムシ	ゾウムシ科	コウチュウ目
329	マダラアシゾウムシ	ゾウムシ科	コウチュウ目
330	オジロアシナガゾウムシ	ゾウムシ科	コウチュウ目
331	ホオジロアシナガゾウムシ	ゾウムシ科	コウチュウ目
332	コミズスマシ	ミズスマシ科	コウチュウ目
333	トウキョウヒメハンミョウ	オサムシ科	コウチュウ目
334	アオオサムシ	オサムシ科	コウチュウ目
335	ヒメヒョウタンゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目
336	ナガヒョウタンゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目
337	キアシヌレチゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目
338	オオホソクビゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目
339	ミイデラゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目
340	オオアトボシアオゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目
341	アオゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目
342	オオキベリアオゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目
343	スジアオゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目
344	キボシアオゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目
345	アオヘリホソゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目
346	ホシボシゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目
347	ウスアカクログモクムシ	オサムシ科	コウチュウ目
348	オオヒラタゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目
349	トネガワナガゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目
350	セアカヒラタゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目
351	クロツヤヒラタゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目
352	ニセマルガタゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目
353	コアオマルガタゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目
354	アカガネオオゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目
355	コガシラミズムシ	コガシラミズムシ科	コウチュウ目
356	コツゲンゴロウ	コツゲンゴロウ科	コウチュウ目
357	マメゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目
358	ヒメゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目
359	ハイイロゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目
360	コシマゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目
361	チビゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目
362	ツブゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目
363	スカシヒロバカゲロウ	ヒロバカゲロウ科	アミメカゲロウ目
364	クサカゲロウ	クサカゲロウ科	アミメカゲロウ目
365	ホシウスバカゲロウ	ウスバカゲロウ科	アミメカゲロウ目
366	ウスバカゲロウ	ウスバカゲロウ科	アミメカゲロウ目
367	チュウレンジバチ	ミフシハバチ科	ハチ目
368	ハグロハバチ	ハバチ科	ハチ目
369	カブラハバチ	ハバチ科	ハチ目
370	ヒメウマノオバチ	コマユバチ科	ハチ目
371	ムラサキウスアメバチ	ヒメバチ科	ハチ目
372	アゲハヒメバチ	ヒメバチ科	ハチ目
373	イヨヒメバチ	ヒメバチ科	ハチ目
374	サキマダラヒメバチ	ヒメバチ科	ハチ目
375	ベッコウクモバチ	クモバチ科	ハチ目
376	オオモンクモバチ	クモバチ科	ハチ目
377	モンクモバチ	クモバチ科	ハチ目
378	ヒメハラナガツチバチ	ツチバチ科	ハチ目
379	オオハラナガツチバチ	ツチバチ科	ハチ目
380	キンケハラナガツチバチ	ツチバチ科	ハチ目
381	キオビツチバチ	ツチバチ科	ハチ目
382	クロナガアリ	アリ科	ハチ目
383	ムネアカオオアリ	アリ科	ハチ目
384	オオフタオビドロバチ	スズメバチ科	ハチ目
385	ミカドトックリバチ	スズメバチ科	ハチ目
386	ムモントックリバチ	スズメバチ科	ハチ目
387	エントツドロバチ	スズメバチ科	ハチ目

■昆虫類 (7/9)

No.	種名	科	目
388	スズバチ	スズメバチ科	ハチ目
389	フタモンアシナガバチ	スズメバチ科	ハチ目
390	セグロアシナガバチ	スズメバチ科	ハチ目
391	キボシアシナガバチ	スズメバチ科	ハチ目
392	キアシナガバチ	スズメバチ科	ハチ目
393	コアシナガバチ	スズメバチ科	ハチ目
394	ムモンホソアシナガバチ	スズメバチ科	ハチ目
395	コガタスズメバチ	スズメバチ科	ハチ目
396	モンスズメバチ	スズメバチ科	ハチ目
397	ヒメスズメバチ	スズメバチ科	ハチ目
398	オオスズメバチ	スズメバチ科	ハチ目
399	キイロスズメバチ	スズメバチ科	ハチ目
400	クロスズメバチ	スズメバチ科	ハチ目
401	オオカバフスジドロバチ	スズメバチ科	ハチ目
402	サトジガバチ	アナバチ科	ハチ目
403	アメリカジガバチ	アナバチ科	ハチ目
404	コクロアナバチ	アナバチ科	ハチ目
405	クロアナバチ	アナバチ科	ハチ目
406	オオハヤバチ	キングチバチ科	ハチ目
407	アカガネコハナバチ	ミツバチ科	ハチ目
408	オオハキリバチ	ミツバチ科	ハチ目
409	キムネクマバチ	ミツバチ科	ハチ目
410	アジアミツバチ(ニホンミツバチ)	ミツバチ科	ハチ目
411	セイヨウミツバチ	ミツバチ科	ハチ目
412	オオマルハナバチ	ミツバチ科	ハチ目
413	トラマルハナバチ	ミツバチ科	ハチ目
414	ミツクリヒゲナガハナバチ	ミツバチ科	ハチ目
415	アカハネナガウンカ	ハネナガウンカ科	カメムシ目
416	マルウンカ	マルウンカ科	カメムシ目
417	アオバハゴロモ	アオバハゴロモ科	カメムシ目
418	スケバハゴロモ	ハゴロモ科	カメムシ目
419	ベッコウハゴロモ	ハゴロモ科	カメムシ目
420	アミガサハゴロモ	ハゴロモ科	カメムシ目
421	アブラゼミ	ゼミ科	カメムシ目
422	ツクツクボウシ	ゼミ科	カメムシ目
423	ミンミンゼミ	ゼミ科	カメムシ目
424	ニイニイゼミ	ゼミ科	カメムシ目
425	ヒグラシ	ゼミ科	カメムシ目
426	コガシラアワフキ	コガシラアワフキ科	カメムシ目
427	シロオビアワフキ	アワフキムシ科	カメムシ目
428	ハマベアワフキ	アワフキムシ科	カメムシ目
429	ミズク	ミズク科	カメムシ目
430	ツマグロオオヨコバイ	オオヨコバイ科	カメムシ目
431	オオヨコバイ	オオヨコバイ科	カメムシ目
432	ツマグロヨコバイ	ヨコバイ科	カメムシ目
433	エノキワタアブラムシ	アブラムシ科	カメムシ目
434	アオヒメヒゲナガアブラムシ	アブラムシ科	カメムシ目
435	セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ	アブラムシ科	カメムシ目
436	エゴノネコアシアブラムシ	アブラムシ科	カメムシ目
437	イセリヤカイガラムシ	ワタフキカイガラムシ科	カメムシ目
438	ケシカタビロアメンボ	カタビロアメンボ科	カメムシ目
439	ホルバートケシカタビロアメンボ	カタビロアメンボ科	カメムシ目
440	アメンボ(ナミアメンボ)	アメンボ科	カメムシ目
441	ヒメアメンボ	アメンボ科	カメムシ目
442	ミズギワカメムシ	ミズギワカメムシ科	カメムシ目
443	コオイムシ	コオイムシ科	カメムシ目
444	タイコウチ	タイコウチ科	カメムシ目
445	ミズカマキリ	タイコウチ科	カメムシ目
446	エサキコムズムシ	ミズムシ科	カメムシ目
447	コムズムシ	ミズムシ科	カメムシ目
448	ハイイロチビミズムシ	ミズムシ科	カメムシ目
449	コマツモムシ	マツモムシ科	カメムシ目
450	アワダチソウゲンバイ	ゲンバウムシ科	カメムシ目
451	ヘクソカズラゲンバイ	ゲンバウムシ科	カメムシ目
452	ツツジゲンバイ	ゲンバウムシ科	カメムシ目

■ 昆虫類 (8/9)

No.	種名	科	目
453	ヨコヅナサシガメ	サシガメ科	カメムシ目
454	アカサシガメ	サシガメ科	カメムシ目
455	オオトビサシガメ	サシガメ科	カメムシ目
456	アカヘリサシガメ	サシガメ科	カメムシ目
457	シマサシガメ	サシガメ科	カメムシ目
458	ヒメジュウジナガカメムシ	ナガカメムシ科	カメムシ目
459	ジュウジナガカメムシ	ナガカメムシ科	カメムシ目
460	オオメナガカメムシ(オオメカメムシ)	ナガカメムシ科	カメムシ目
461	ヒゲナガカメムシ	ナガカメムシ科	カメムシ目
462	ヒョウタンナガカメムシ	ナガカメムシ科	カメムシ目
463	オオモンシロナガカメムシ	ナガカメムシ科	カメムシ目
464	メダカナガカメムシ	メダカナガカメムシ科	カメムシ目
465	オオホシカメムシ	オオホシカメムシ科	カメムシ目
466	クモヘリカメムシ	ホソヘリカメムシ科	カメムシ目
467	ホソヘリカメムシ	ホソヘリカメムシ科	カメムシ目
468	ホオズキカメムシ	ヘリカメムシ科	カメムシ目
469	オオクモヘリカメムシ	ヘリカメムシ科	カメムシ目
470	ホソハリカメムシ	ヘリカメムシ科	カメムシ目
471	ハリカメムシ	ヘリカメムシ科	カメムシ目
472	ハラビロヘリカメムシ	ヘリカメムシ科	カメムシ目
473	ホシハラビロヘリカメムシ	ヘリカメムシ科	カメムシ目
474	ツマキヘリカメムシ	ヘリカメムシ科	カメムシ目
475	マツヘリカメムシ	ヘリカメムシ科	カメムシ目
476	キバラヘリカメムシ	ヘリカメムシ科	カメムシ目
477	マルカメムシ	マルカメムシ科	カメムシ目
478	ヨコヅナツチカメムシ	ツチカメムシ科	カメムシ目
479	フタバシツチカメムシ	ツチカメムシ科	カメムシ目
480	ミツボシツチカメムシ	ツチカメムシ科	カメムシ目
481	アカギカメムシ	キンカメムシ科	カメムシ目
482	アカスジキンカメムシ	キンカメムシ科	カメムシ目
483	ノコギリカメムシ	ノコギリカメムシ科	カメムシ目
484	イネクロカメムシ	カメムシ科	カメムシ目
485	ウズラカメムシ	カメムシ科	カメムシ目
486	シロヘリカメムシ	カメムシ科	カメムシ目
487	プチヒゲカメムシ	カメムシ科	カメムシ目
488	キマダラカメムシ	カメムシ科	カメムシ目
489	ナガメ	カメムシ科	カメムシ目
490	ムラサキシラホシカメムシ	カメムシ科	カメムシ目
491	クサギカメムシ	カメムシ科	カメムシ目
492	イネカメムシ	カメムシ科	カメムシ目
493	アオクサカメムシ	カメムシ科	カメムシ目
494	ミナミアオカメムシ	カメムシ科	カメムシ目
495	チャバネアオカメムシ	カメムシ科	カメムシ目
496	シロヘリクチフトカメムシ	カメムシ科	カメムシ目
497	ルリクチフトカメムシ	カメムシ科	カメムシ目
498	エビイロカメムシ	エビイロカメムシ科	カメムシ目
499	エサキモンキツノカメムシ	ツノカメムシ科	カメムシ目
500	ハラビロカマキリ	カマキリ科	カマキリ目
501	ムネアカハラビロカマキリ	カマキリ科	カマキリ目
502	コカマキリ	カマキリ科	カマキリ目
503	チョウセンカマキリ	カマキリ科	カマキリ目
504	オオカマキリ	カマキリ科	カマキリ目
505	モリチャバネゴキブリ	チャバネゴキブリ科	ゴキブリ目
506	マダラカマドウマ	カマドウマ科	バッタ目
507	ヤブキリ	キリギリス科	バッタ目
508	ヒメギス	キリギリス科	バッタ目
509	クサキリ	キリギリス科	バッタ目
510	クビキリギス	キリギリス科	バッタ目
511	ホシササキリ	キリギリス科	バッタ目
512	ウスイロササキリ	キリギリス科	バッタ目
513	オナガササキリ	キリギリス科	バッタ目
514	ササキリ	キリギリス科	バッタ目
515	ハヤシノウマオイ	キリギリス科	バッタ目
516	ツユムシ	ツユムシ科	バッタ目
517	アシグロツユムシ	ツユムシ科	バッタ目

■昆虫類 (9/9)

No.	種名	科	目
518	セスジツユムシ	ツユムシ科	バッタ目
519	サトクダマキモドキ	ツユムシ科	バッタ目
520	エンマコオロギ	コオロギ科	バッタ目
521	タンボコオロギ	コオロギ科	バッタ目
522	ハラオカメコオロギ	コオロギ科	バッタ目
523	ツヅレサセコオロギ	コオロギ科	バッタ目
524	アオマツムシ	マツムシ科	バッタ目
525	スズムシ	マツムシ科	バッタ目
526	キンヒバリ	ヒバリモドキ科	バッタ目
527	ヤチスズ	ヒバリモドキ科	バッタ目
528	マダラスズ	ヒバリモドキ科	バッタ目
529	シバスズ	ヒバリモドキ科	バッタ目
530	カネタタキ	カネタタキ科	バッタ目
531	ケラ	ケラ科	バッタ目
532	ノミバッタ	ノミバッタ科	バッタ目
533	トゲヒシバッタ	ヒシバッタ科	バッタ目
534	ハネナガヒシバッタ	ヒシバッタ科	バッタ目
535	ハラヒシバッタ	ヒシバッタ科	バッタ目
536	オンブバッタ	オンブバッタ科	バッタ目
537	ツチイナゴ	バッタ科	バッタ目
538	ハネナガイナゴ	バッタ科	バッタ目
539	コバネイナゴ	バッタ科	バッタ目
540	ショウリョウバッタ	バッタ科	バッタ目
541	ショウリョウバッタモドキ	バッタ科	バッタ目
542	ヒナバッタ	バッタ科	バッタ目
543	トノサマバッタ	バッタ科	バッタ目
544	クルマバッタ	バッタ科	バッタ目
545	クルマバッタモドキ	バッタ科	バッタ目
546	イボバッタ	バッタ科	バッタ目
547	トゲナナフシ	ナナフシ科	ナナフシ目
548	ナナフシモドキ	ナナフシ科	ナナフシ目
549	ヒゲジロハサミムシ	ハサミムシ科	ハサミムシ目
550	ホソミオツネトンボ	アオイトトンボ科	トンボ目
551	アオイトトンボ	アオイトトンボ科	トンボ目
552	オオアオイトトンボ	アオイトトンボ科	トンボ目
553	ハグロトンボ	カワトンボ科	トンボ目
554	アオモンイトトンボ	イトトンボ科	トンボ目
555	アジアイトトンボ	イトトンボ科	トンボ目
556	サラサヤンマ	ヤンマ科	トンボ目
557	アオヤンマ	ヤンマ科	トンボ目
558	カトリヤンマ	ヤンマ科	トンボ目
559	ヤブヤンマ	ヤンマ科	トンボ目
560	ギンヤンマ	ヤンマ科	トンボ目
561	クロスジギンヤンマ	ヤンマ科	トンボ目
562	ウチワヤンマ	サナエトンボ科	トンボ目
563	コオニヤンマ	サナエトンボ科	トンボ目
564	オナガサナエ	サナエトンボ科	トンボ目
565	ナゴヤサナエ	サナエトンボ科	トンボ目
566	ホンサナエ	サナエトンボ科	トンボ目
567	オニヤンマ	オニヤンマ科	トンボ目
568	オオヤマトンボ	ヤマトンボ科	トンボ目
569	チョウトンボ	トンボ科	トンボ目
570	ナツアカネ	トンボ科	トンボ目
571	ノシメトンボ	トンボ科	トンボ目
572	アキアカネ	トンボ科	トンボ目
573	コノシメトンボ	トンボ科	トンボ目
574	コシアキトンボ	トンボ科	トンボ目
575	コフキトンボ	トンボ科	トンボ目
576	ショウジョウトンボ	トンボ科	トンボ目
577	ウスバキトンボ	トンボ科	トンボ目
578	ハラビロトンボ	トンボ科	トンボ目
579	シオカラトンボ	トンボ科	トンボ目
580	シオヤトンボ	トンボ科	トンボ目
581	オオシオカラトンボ	トンボ科	トンボ目

合計 148 科 584 種 (うち非公開種 3 種) ※保護上の観点から非公開とする

■その他

①哺乳類

No.	種名	科	目
1	ノウサギ	ウサギ科	ウサギ目
2	イノシシ	イノシシ科	ウシ目
3	アライグマ	アライグマ科	ネコ目
4	ホンドイタチ	イタチ科	ネコ目
5	ホンドタヌキ	イヌ科	ネコ目
6	ハクビシン	ジャコウネコ科	ネコ目
7	ノネコ	ネコ科	ネコ目
8	アズマモグラ	モグラ科	モグラ目
8 科 8 種			

②クモ類

No.	種名	科名	No.	種名	科名
1	ジグモ	ジグモ科	34	コクサグモ	タナグモ科
2	シロカネイソウロウグモ	ヒメグモ科	35	ネコハグモ	ハグモ科
3	オナガグモ	ヒメグモ科	36	シボグモ	シボグモ科
4	ヤホシサヤヒメグモ	ヒメグモ科	37	ササグモ	ササグモ科
5	オオヒメグモ	ヒメグモ科	38	イオウイロハシリグモ	キンダグモ科
6	ヒメグモ	ヒメグモ科	39	フジイコモリグモ	コモリグモ科
7	ビジョオニグモ	コガネグモ科	40	ウツキコモリグモ	コモリグモ科
8	アオオニグモ	コガネグモ科	41	キクツキコモリグモ	コモリグモ科
9	アカオニグモ	コガネグモ科	42	キバラコモリグモ	コモリグモ科
10	オニグモ	コガネグモ科	43	アライトコモリグモ	コモリグモ科
11	コガネグモ	コガネグモ科	44	キハダカニグモ	カニグモ科
12	チュウガタコガネグモ	コガネグモ科	45	コカニグモ	カニグモ科
13	ナガコガネグモ	コガネグモ科	46	コハナグモ	カニグモ科
14	コガタコガネグモ	コガネグモ科	47	ハナグモ	カニグモ科
15	ギンメッキゴミグモ	コガネグモ科	48	ワカバグモ	カニグモ科
16	ゴミグモ	コガネグモ科	49	アズチグモ	カニグモ科
17	ヨツデゴミグモ	コガネグモ科	50	カニグモ	カニグモ科
18	キザハシオニグモ	コガネグモ科	51	キハダエビグモ	エビグモ科
19	シロスジジョウジョウグモ	コガネグモ科	52	アサヒエビグモ	エビグモ科
20	ナカムラオニグモ	コガネグモ科	53	シャコグモ	エビグモ科
21	ドヨウオニグモ	コガネグモ科	54	ネコハエトリ	ハエトリグモ科
22	ワキグロサツマノミダマシ	コガネグモ科	55	マミジロハエトリ	ハエトリグモ科
23	ヤマシロオニグモ	コガネグモ科	56	ヨダンハエトリ	ハエトリグモ科
24	サツマノミダマシ	コガネグモ科	57	オスクロハエトリ	ハエトリグモ科
25	ジョロウグモ	コガネグモ科	58	ヤハズハエトリ	ハエトリグモ科
26	オオシロカネグモ	アシナガグモ科	59	シラヒゲハエトリ	ハエトリグモ科
27	コシロカネグモ	アシナガグモ科	60	アリグモ	ハエトリグモ科
28	キララシロカネグモ	アシナガグモ科	61	チャイロアサヒハエトリ	ハエトリグモ科
29	ヤサガタアシナガグモ	アシナガグモ科	62	メスジロハエトリ	ハエトリグモ科
30	アシナガグモ	アシナガグモ科	63	デーニツハエトリ	ハエトリグモ科
31	ウロコアシナガグモ	アシナガグモ科	64	ミスジハエトリ	ハエトリグモ科
32	ウズグモ	ウズグモ科	65	カラスハエトリ	ハエトリグモ科
33	クサグモ	タナグモ科	66	アオオビハエトリ	ハエトリグモ科
14 科 66 種					

③甲殻類

No.	種名	科	目
1	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ科	エビ目
2	サワガニ	サワガニ科	エビ目
3	スジエビ	テナガエビ科	エビ目
4	テナガエビ	テナガエビ科	エビ目
5	カワリヌマエビ属	ヌマエビ科	エビ目
6	ヌマエビ	ヌマエビ科	エビ目
7	ミナミヌマエビ	ヌマエビ科	エビ目
8	カイエビ	カイエビ科	カイエビ目
9	タマカイエビ	タマカイエビ科	カイエビ目
10	ホウネンエビ	ホウネンエビ科	ホウネンエビ目
11	フロリダマミズヨコエビ	マミズヨコエビ科	ヨコエビ目
12	ニッポンヨコエビ	ヨコエビ科	ヨコエビ目
13	ニホンヒメフナムシ	フナムシ科	ワラジムシ目
10 科 13 種			

④貝類

No.	種名	科名	目名
1	ドブガイ	イシガイ科	イシガイ目
2	アズキガイ	アズキガイ科	ニナ目
3	マメタニシ	エゾマメタニシ科	ニナ目
4	チリメンカワニナ	カワニナ科	ニナ目
5	ヒメタニシ	タニシ科	ニナ目
6	マルタニシ	タニシ科	ニナ目
7	マシジミ	シジミ科	ハマグリ目
8	トクサオカチョウジガイ	オカクチキレガイ科	マイマイ目
9	ホソオカチョウジガイ	オカクチキレガイ科	マイマイ目
10	オカチョウジガイ	オカチョウジガイ科	マイマイ目
11	ヒメオカモノアラガイ	オカモノアラガイ科	マイマイ目
12	ウスカワマイマイ	オナジマイマイ科	マイマイ目
13	オナジマイマイ	オナジマイマイ科	マイマイ目
14	カタマメマイマイ	オナジマイマイ科	マイマイ目
15	カドコオオベソマイマイ	オナジマイマイ科	マイマイ目
16	ヒダリマキマイマイ	オナジマイマイ科	マイマイ目
17	ミスジマイマイ	オナジマイマイ科	マイマイ目
18	ナミコギセル	キセルガイ科	マイマイ目
19	ヒカリギセル	キセルガイ科	マイマイ目
20	チョウセンスナガイ	キバサナギガイ科	マイマイ目
21	チャコウラナメクジ	コウラナメクジ科	マイマイ目
22	コハクガイ	コハクガイ科	マイマイ目
23	ヒメコハクガイ	コハクガイ科	マイマイ目
24	ナメクジ	ナメクジ科	マイマイ目
25	パツラマイマイ	パツラマイマイ科	マイマイ目
26	ウラジロベッコウ	ベッコウマイマイ科	マイマイ目
27	マルシタラ	ベッコウマイマイ科	マイマイ目
28	ミジンマイマイ	ミジンマイマイ科	マイマイ目
29	ドブシジミ	ドブシジミ科	マルスダレガイ目
30	サカマキガイ	サカマキガイ科	モノアラガイ目
31	ヒメモノアラガイ	モノアラガイ科	モノアラガイ目
32	モノアラガイ	モノアラガイ科	モノアラガイ目
21 科 32 種			

確認種リストⅡ

河川水辺の国勢調査による確認種

(国土交通省)

※河川水辺の国勢調査は、調査対象によって調査年度や調査地点が異なります。本資料では、野田市域を囲む河川域における自然環境の概況を把握するための簡易リストとしてとりまとめています。

※確認場所を伴うデータの為、希少種保全の観点から、植物・昆虫類は掲載を省略しています。

※植物・昆虫類の調査結果や各調査対象ごとの調査方法、調査地点、調査時期等、調査の詳細については、「河川環境データベース（河川水辺の国勢調査）」のホームページをご参照下さい。
(<http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/>)

■鳥類

No.	種名	江戸川	利根川	利根運河	No.	種名	江戸川	利根川	利根運河
1	カイツブリ	○	○	●	61	キジバト	●	●	○
2	ハジロカイツブリ		△		62	カッコウ	●	●	○
3	カワウ	●	●	●	63	ホトギス	○	●	○
4	ゴイサギ	○	○	○	64	アマツバメ	○	○	
5	ササゴイ	○			65	カワセミ	●	○	●
6	アマサギ	○	△		66	コゲラ	○	△	○
7	ダイサギ	●	○	●	67	ヒバリ	●	●	△
8	チュウサギ	○	○		68	シヨウドウツバメ	○	○	
9	コサギ	○	○	○	69	ツバメ	●	●	●
10	アオサギ	●	●	●	70	イワツバメ	○		
11	ガチョウ	△		△	71	ハクセキレイ	●	●	○
12	オシドリ			○	72	セグロセキレイ	●	●	○
13	マガモ	○	○	△	73	タヒバリ	●	○	○
14	カルガモ	●	●	●	74	ヒヨドリ	●	●	●
15	コガモ	○	●	○	75	モズ	●	●	●
16	トモエガモ		○		76	アカモズ		△	
17	ヨシガモ		△		77	ヒレンジャク		○	
18	オカヨシガモ	○	○		78	ジョウビタキ	○	○	○
19	ヒドリガモ	△			79	ノビタキ	△	△	
20	オナガガモ			△	80	アカハラ	●	○	
21	シマアジ		△		81	シロハラ	○	○	
22	ホシハジロ			△	82	ツグミ	●	●	●
23	スズガモ	○			83	ソウシチョウ			○
24	ミサゴ		△	△	84	ウグイス	●	●	●
25	トビ	△	●		85	コヨシキリ	○	●	
26	オオタカ	○	●	○	86	オオヨシキリ	●	●	○
27	ハイタカ	△	○		87	センダイムシクイ			○
28	ケアシノスリ	△			88	セッカ	●	●	○
29	ノスリ	●	●		89	オオルリ	△		
30	サシバ	△	○	△	90	エゾビタキ		○	
31	ハイロチュウヒ	○	○	○	91	エナガ	△	○	○
32	ハヤブサ	○			92	ツリスガラ	○		
33	コチョウゲンボウ	△	△		93	シジュウカラ	●	●	○
34	チョウゲンボウ	●	●		94	メジロ	○	○	●
35	コリンウズラ		△		95	ホオジロ	●	●	●
36	コジュケイ	○	●	●	96	ホオアカ		○	
37	キジ	●	●	○	97	カシラダカ	●	●	○
38	クイナ	○	○	○	98	アオジ	○	●	●
39	バン	○	○	●	99	クロジ		△	
40	オオバン			○	100	オオジュリン	●	○	●
41	ミヤコドリ	○			101	アトリ	○		
42	コチドリ	●	○	○	102	カワラヒワ	●	●	○
43	イカルチドリ	○	○		103	マヒワ	○		
44	シロチドリ	○	△		104	ベニマシコ	○	○	
45	ムナグロ	○	○		105	イカル	△		
46	ダイゼン	○			106	シメ	●	○	○
47	タゲリ	○	●		107	ベニスズメ		△	
48	トウネン	○			108	シマキンパラ	△		
49	ハマシギ	○			109	スズメ	●	●	●
50	アオアシシギ		○		110	ムクドリ	●	●	○
51	イソシギ	○	○	○	111	カケス	○	○	○
52	タシギ	○	○		112	オナガ	○	○	●
53	オオジシギ		△		113	ハシボソガラス	●	●	●
54	ユリカモメ	○	△		114	ハシブトガラス	●	●	●
55	セグロカモメ	●	○		115	アヒル			○
56	カモメ		△		116	ドバト	●	●	○
57	ウミネコ	○			117	カオジロガビチョウ		○	
58	アジサシ		△						
59	コアジサシ	○	△						
60	シラコバト	○	△						
						種数計	93	91	60

(凡例：●2017年／○2002～2007年／△1996～1997年調査のうち最も最近の確認を表示)

■爬虫類

	種名	江戸川	利根川	利根運河
1	アオダイショウ	●		
2	カナヘビ	○	○	△
3	クサガメ		●	●
4	シマヘビ	●	○	●
5	ニホンカナヘビ	●	●	
6	ニホンマムシ	●	○	
7	ニホンヤモリ		●	
8	ヒガシニホントカゲ		●	
9	アカミミガメ(ミシシッピアカミミガメ)	●	●	●
10	ヤマカガシ	●		
種数計		7	8	4

(凡例：●2013年／○2000～2005年／△1994～1999年調査のうち最も最近の確認を表示)

■両生類

No.	種名	江戸川	利根川	利根運河
1	アズマヒキガエル	○	○	
2	アマガエル	○	○	△
3	ウシガエル	●	●	●
4	トウキョウダルマガエル	●	○	
5	ニホンアカガエル	○	○	●
6	ニホンアマガエル	●	●	
7	ヌマガエル	●	●	
種数計		7	7	3

(凡例：●2013年／○2000～2005年／△1994～1999年調査のうち最も最近の確認を表示)

■魚類

No.	種名	利根川	江戸川	利根運河	No.	種名	利根川	江戸川	利根運河
1	ウナギ	△	○		23	アメリカナマズ	○	●	
2	コイ	○	●	●	24	ナマズ	△	●	
3	ゲンゴロウブナ	△	●	○	25	アカザ	△		
4	ギンブナ	○	●	●	26	ワカサギ	○	○	
5	キンギョ	△			27	アユ		●	○
6	タイリクバラタナゴ	○	●	●	28	ボラ	○	●	○
7	ハクレン	○	○	○	29	カダヤシ	○		●
8	ワタカ	○	●	△	30	ミナメダカ	○	●	●
9	ハス	○	●	○	31	スズキ		●	△
10	オイカワ	○	●	●	32	ブルーギル	○	●	
11	ウグイ	△	○		33	オオクチバス	○	●	●
12	モツゴ	○	●	●	34	コクチバス		●	
13	タモロコ	○	●	●	35	スミウキゴリ		●	
14	カマツカ	○	●		36	ウキゴリ		●	
15	ツチフキ	○	●	●	37	ムサシノジュズカケハゼ	△		●
16	ニゴイ	○	●		38	マハゼ	○	●	●
17	スゴモロコ	○	●	●	39	シマヨシノボリ		△	
18	コウライモロコ		△	△	40	トウヨシノボリ	△	○	○
19	ドジョウ	○	●	○	41	ヌマチチブ	○	●	△
20	カラドジョウ		●		42	カムルチー	△	●	●
21	ヒガシシマドジョウ	○			43	スナヤツメ	○		
22	ギギ		●	●	種数計		34	37	26

(凡例：●2014年／○2002～2009年／△1993～1998年調査のうち最も最近の確認を表示)

■哺乳類

	種名	江戸川	利根川	利根運河
1	ジネズミ		○	
2	アズマモグラ	●	●	●
3	ヒミズ			●
4	アブラコウモリ	○	●	
5	ホンドキツネ	●	○	●
6	ホンドタヌキ	●	●	●
7	ホンドイタチ	●	●	●
8	ホンドテン		●	
9	ハクビシン			●
10	ハタネズミ	○	●	○
11	カヤネズミ	●	○	
12	ホンドアカネズミ	●	●	●
13	ドブネズミ	△	△	
14	ハツカネズミ	●	△	
15	ノウサギ	●	○	●
	種数計	11	13	9

(凡例：●2013年/○2000～2005年/△1994～1999年調査のうち最も最近の確認を表示)

【参考】希少種・外来種カテゴリーについて

■希少種のカテゴリー

①環境省レッドリスト

絶滅 (EX)	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ 存続している種
絶滅危惧 I 類 (CR+EN) ※	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧 I A 類 (CR) ※	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧 I B 類 (EN) ※	I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧 II 類 (VU) ※	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 (NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある 地域 個体群 (LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

※絶滅危惧種：絶滅のおそれのある種

②千葉県レッドデータブック

消息不明・絶滅生物 (X)	かつては生息・生育が確認されていたにもかかわらず、近年長期にわたって確実な生存情報がなく、千葉県から絶滅した可能性の高い生物。ただし、すでに保護の対象外となったかに見える生物であっても、将来、他の生息・生育地からの再定着や埋土種子の発芽などにより自然回復する可能性もありうるので、かつての生息・生育地については、現存する動植物とともに、その環境の保全に努める必要がある。
野生絶滅生物 (EW) ※植物のみ	かつて千葉県に生育していた生物のうち、自生では見られなくなってしまったものの、千葉県の個体群の子孫が栽培などによって維持されているもの。特に埋土種子や埋土胞子などから再生した個体がありながら、本来の自生地では環境の変化によって生育が維持できない状態の生物。このカテゴリーに該当する種類の本来の生育地での存在を脅かす要因は最大限の努力を持って軽減または排除し、本来の自生地、あるいはその代替地において持続的に生活できるように図る必要がある。
最重要保護生物 (A)	個体数が極めて少ない、生息・生育環境が極めて限られている、生息・生育地のほとんどが環境改変の危機にある、などの状況にある生物。放置すれば近々にも千葉県から絶滅、あるいはそれに近い状態になるおそれがあるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響及び要因は最大限の努力をもって軽減又は排除する必要がある。
重要保護生物 (B)	個体数がかなり少ない、生息・生育環境がかなり限られている、生息・生育地のほとんどで環境改変の可能性のある、などの状況にある生物。放置すれば著しい個体数の減少は避けられず、近い将来カテゴリー A への移行が必至と考えられるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響及び要因は可能な限り軽減又は排除する必要がある。
要保護生物 (C)	個体数が少ない、生息・生育環境が限られている、生息・生育地の多くで環境

	<p>改変の可能性がある、などの状況にある生物。放置すれば著しい個体数の減少は避けられず、将来カテゴリーBに移行することが予測されるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響及び要因は最小限にとどめる必要がある。</p>
一般保護生物 (D)	<p>個体数が少ない、生息・生育環境が限られている、生息・生育地の多くで環境改変の可能性がある、などの状況にある生物。放置すれば個体数の減少は避けられず、自然環境の構成要素としての役割が著しく衰退する可能性があり、将来カテゴリーCに移行することが予測されるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響は可能な限り生じないように注意する。</p>
保護参考雑種 (RH) ※植物のみ	<p>自然界において形成されることが稀な雑種であって、個体数が著しく少なく、分布地域及び生育環境が著しく限定されているもの。これらについては、今後、個々の雑種の実態を明らかにしたうえで、保護・管理上の取り扱いを定めるものとする。</p>

■環境省レッドリストのカテゴリーとの対応

環境省	千葉県
絶滅 (EX)	消息不明・絶滅生物 (X)
野生絶滅 (EW)	野生絶滅生物 (EW)
絶滅危惧 I A類 (CR)	最重要保護生物 (A)
絶滅危惧 I B類 (EN)	重要保護生物 (B)
絶滅危惧 II類 (VU)	要保護生物 (C)
準絶滅危惧 (NT)	一般保護生物 (D)
情報不足 (DD)	—
絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	—
—	保護参考雑種 (RH)

■外来種（環境省・生態系被害防止外来種リスト）の 카테고리

外来種の中でも、日本における侵略性から特に注意が必要な外来種のリスト。特定外来生物は全て含まれる。特定外来生物以外は法的規制はないが、取扱いに注意が必要。

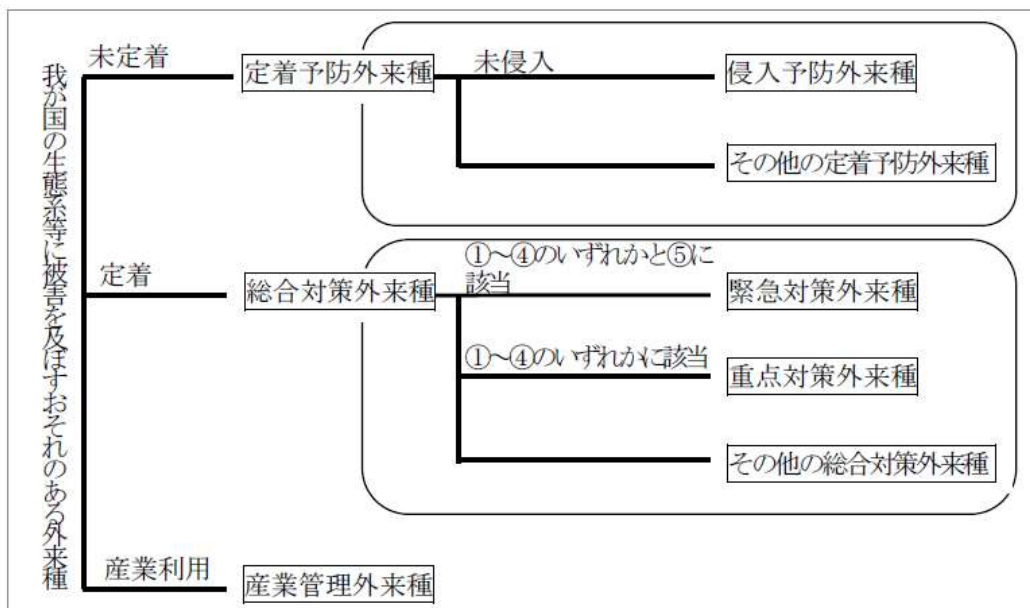


図 生態系被害防止外来種リストのカテゴリ区分(出典:環境省資料)

＜緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方＞

(被害の深刻度に関する基準)

- ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす

(対策の実効性、実行可能性)

- ⑤防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

＜参考＞千葉県外来生物リスト

外来生物の対策の必要性の高さから、影響度と緊急度から評価、区分されている。

・生態系又は人に対する【影響度】

A	生態系又は人に対し、回復が困難となる深刻な影響が認められる、あるいは予測される。 (※生態系の回復が困難となる深刻な影響は、競争、交雑等による在来種の絶滅等)
B	生態系又は人に対し、深刻な影響が認められる、あるいは予測される。
C	生態系に対し、明らかな影響が認められる、あるいは予測される。
D	生態系に対し、明らかな影響はあまり認められない、あるいは予測されない。
DD	現時点では、上記A～Dの影響度カテゴリーを判定する情報が得られていない。

・根絶の可能性を考慮した防除の【緊急度】

A	非常に高い
B	高い
C	低い